

平成 27 年度

# 事業報告書

Annual report

---

学校法人 高田学苑

---

Takada Gakuen

# Contents

## 法人の概要

・・・ 2～10

建学の精神／教育方針／設置する学校、定員及び現員／役員氏名／教職員数／組織構成図  
校舎敷地および建物等の概要／学生・生徒 志願者数推移／在籍者数推移／進路状況

## 事業実績の概要

・・・ 11～19

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況／監査法人監査報告／安全管理への取り組み  
夏期研修／教職員健康診断／高田学苑多目的グラウンド整備事業／みえ高田FC（U-15）の発足  
役員・教職員の表彰／教職員の異動状況／給付型奨学金・授業料等減免（助成）・短期大学入学金免除制度

## 教育活動の実績

### 高田短期大学

・・・ 20～53

時代・社会の変化に即応した取り組み

学士力向上を目指した教育課程等の展開／主体性・協調性を育む短大生活支援  
キャリア教育・キャリア支援の充実／学生募集と高大交流事業

地域への社会貢献事業

短大全体／子ども学科／キャリア育成学科オフィスワークコース・介護福祉コース

地域連携施設

仏教教育研究センター／育児文化研究センター／キャリア研究センター／介護福祉研究センター

その他の学内情報

「高等教育機関魅力向上支援補助金」に採択／仏教行事委員会

子ども学科／キャリア育成学科オフィスワークコース・介護福祉コース

ボランティア活動支援室／「コンソーシアム三重」主催のFD・SD研修会

施設設備の整備事業の実績

### 高田中学校・高等学校

・・・ 54～64

キャリア教育の推進

部活動の推進

防災教育・危機管理教育の取り組み

教職員資質向上への取り組み

きめ細やかな学習指導の推進

命の大切さを考える教育の推進

国際交流事業

学校自己点検・学校関係者評価

Ⅱ類特別選抜クラス・数理コースの授業展開

教職員海外研修

人権教育研修の推進

高田中・高等学校公開イベント

学校安全・保健計画の推進

施設設備の整備事業の実績

## 財務の概要

・・・ 65～74

資金収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）

事業活動収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）

貸借対照表の概要

財産目録

# 法人の概要

## 建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としています。



## 教育方針

### 短期大学

本学では「教育基本法」ならびに「学校教育法」にのっとり、本学の建学の精神・教育の理念に基づいて、少子化・子育て困難、超高齢化、そしてIT化が進行する現代社会からの要請にこたえ、高度な専門知識や技術・技能を身につけて「やわらか心」で地域社会に貢献できる保育者、介護福祉士、オフィスワーカーを育成することを教育目標としています。



### 中・高等学校

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信・表裏相応を校訓とし、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っています。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成しています。



## 設置する学校、定員及び現員

- ◆ 高田短期大学 三重県津市一身田豊野 195
- ◆ 高田高等学校 三重県津市一身田町 2843
- ◆ 高田中学校 三重県津市一身田町 2843

(平成27年5月1日現在)

高田短期大学					
学科名	入学定員	収容定員	1年生	2年生	合計
子ども学科	150名	300名	162名	151名	313名
キャリア育成学科	100名	200名	73名	79名	152名
〔 オフィスワークコース	〔 60名	〔 120名	〔 55名	〔 62名	〔 117名
〔 介護福祉コース	〔 40名	〔 80名	〔 18名	〔 17名	〔 35名
合 計	250名	500名	235名	230名	465名

高田中・高等学校						
	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田高等学校	560名	1,690名	600名	580名	617名	1,797名

(学則定数 730名)(3ヵ年計 2,190名)

	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田中学校	180名	580名	182名	196名	196名	574名

(学則定数 240名)(3ヵ年計 720名)

## 役員氏名

(平成27年4月1日現在)

理事		定数10名 実数9名	
区分	氏名	現職等	
第1号 宗務総長	安藤 光淵	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥 栗原 廣海 梅林 久高	学校法人高田学苑 理事長(学苑長) 高田短期大学 学長 高田中・高等学校 校長	
第3号 評議員	伊藤 友治 望月 演 井村 正勝 永井 玲子 志田 行弘	(有)平治煎餅 会長、(株)津銘菓 代表取締役 元高田中・高等学校 校長 井村屋グループ(株) シニア・フェロー 元津家庭裁判所 調停委員 三重テレビ放送(株) 相談役	
監事		定数2名 実数2名	
区分	氏名	現職等	
監事	下津 和文 紀太 允	下津醤油(株) 代表取締役会長 (一社)三重県警備業協会 監事	

評議員		定数21~25名 実数21名	
区分	氏名	現職等	
第1号 宗務総長	安藤 光淵	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥 栗原 廣海 梅林 久高	学校法人高田学苑 理事長(学苑長) 高田短期大学 学長 高田中・高等学校 校長	
第3号 法人職員	千草 篤磨 杉浦 礼子 米田 眞 下村 尚	高田短期大学 子ども学科長 高田短期大学 キャリア育成学科長 高田中・高等学校 教頭 高田中・高等学校 教頭	
第4号 功労者	望月 演 井村 正勝 岩崎 克彦 柘植 宗隆	元高田中・高等学校 校長 井村屋グループ(株) シニア・フェロー 医療法人思源会 常務理事 元高田中・高等学校 教頭	
第5号 卒業者	前畑みち代 落合 壽 松田 英明 倉田 栄治	高田短期大学非常勤講師、育児文化研究センター客員研究員 元津市議会議員 三重牛セキ販売(株) 代表取締役社長 (株)津ドライビングスクール 代表取締役社長	
第6号 本山総務	鈴木 紀生	(宗)真宗高田派総務	
第7号 学識経験者	伊藤 友治 坪井 俊輔 永井 玲子 志田 行弘	(有)平治煎餅 会長、(株)津銘菓 代表取締役 弁護士 坪井法律事務所 元津家庭裁判所 調停委員 三重テレビ放送(株) 相談役	

# 教職員数

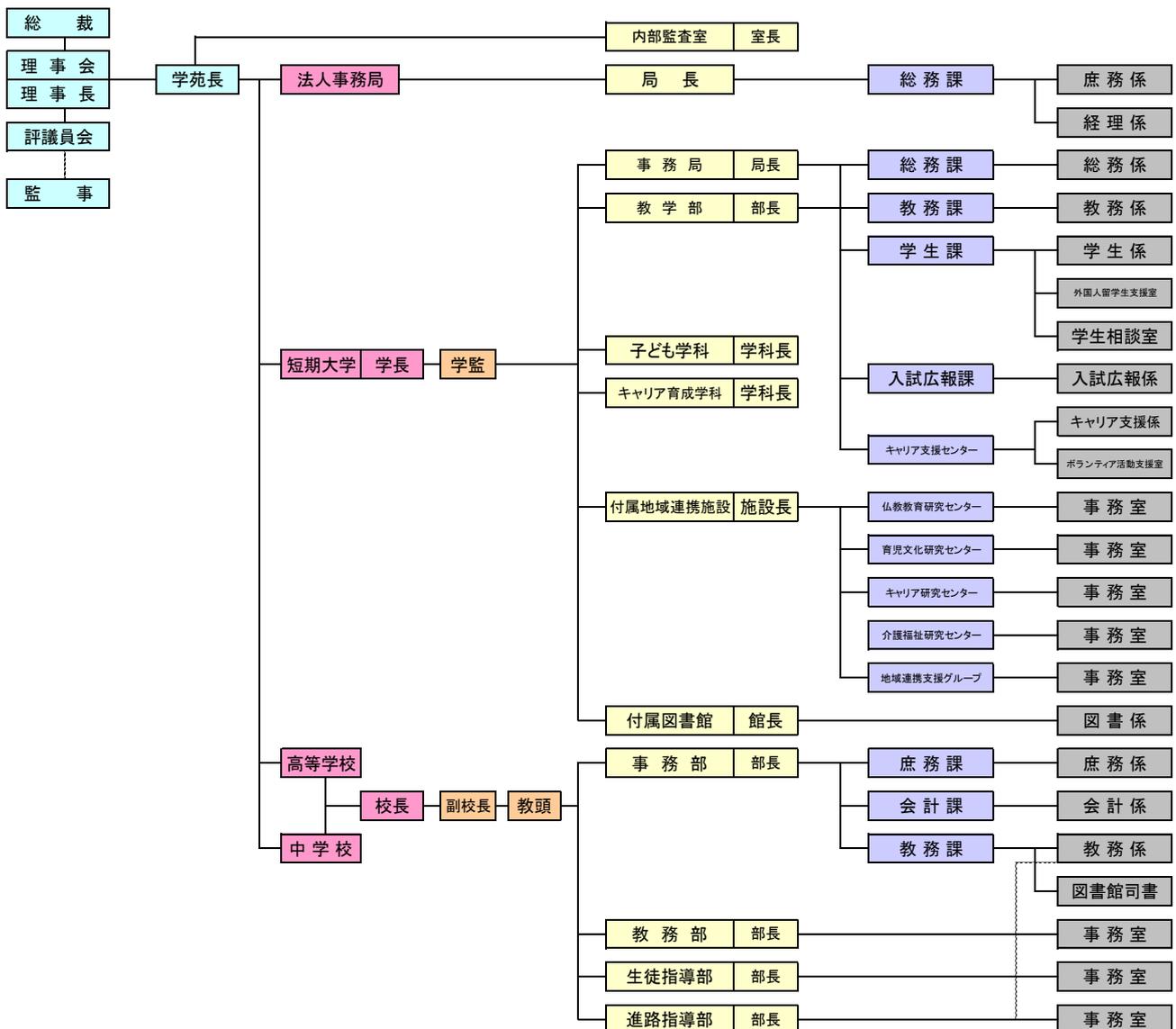
(平成27年5月1日現在)

		教 員		職 員		合 計
		本務教員	兼務教員 嘱託・非常勤等	本務職員	兼務職員 嘱託・非常勤等	
本 部		—	—	7名	0名	7名
短 期 大 学	子ども学科	13名	30名	12名	13名	68名
	キャリア育成学科	12名	33名	8名	2名	55名
	〔 オフィスワークコース 介護福祉コース	〔 7名 5名	〔 16名 17名	〔 6名 2名	〔 2名 0名	〔 31名 24名
高等学校		93名	40名	10名	5名	148名
中学校		30名	9名	4名	1名	44名
合 計		148名	112名	41名	21名	322名

(注) 学苑長は学苑本部の本務職員に、短大学長は子ども学科の本務教員に含む。

また、短大の兼務教員数には非常勤講師の後期採用者も含む。

## 組織構成図



## 校舎敷地および建物等の概要

区分		専用面積㎡	計面積㎡	所在地	権利の所属	備考
短期大学用地	校舎敷地	7,399	7,399	津市一身田豊野	自己所有	
	運動場用地	5,921	5,921	〃	〃	
	学生用駐車場用地	2,392	2,392	〃	〃	
	その他	3,279	3,279	〃	〃	緑地等
	計	18,991	18,991			
上記以外の学校用地	中学校校舎敷地	1,274	1,274	津市一身田町他	自己所有	内 借用588㎡
	高等学校校舎敷地	15,180	15,180	〃	〃	内 借用578㎡
	中学校運動場用地	14,481	14,481	〃	〃	
	高等学校運動場用地	49,169	49,169	〃	〃	内 借用3,275㎡
	その他	9,651	9,651	〃	〃	内 借用1,663㎡
	計	89,755	89,755			
合 計		108,746	108,746			
校地以外の土地		61,913	61,913	津市芸濃町河内	自己所有	山 林

### 短期大学の部

区分	面積㎡	室数	構 造	権利の所属
1号館	3155.60	33	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	自己所有
2号館	4163.75	38	鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	〃
3号館	1743.64	15	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
音楽棟	858.82	23	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
図書館	803.19	8	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
体育館	1983.96	15	鉄筋コンクリート造アルミニウム板葺3階建	〃
部室	31.68	2	鉄骨造2階建	〃
その他	16.98			〃
計	12757.62	134		

### 法人本部、高等学校・中学校の部

区分	面積㎡	室数	構 造	権利の所属
本館	4721.83	36	鉄筋コンクリート造陸屋根7階建	自己所有
1号館	2722.10	25	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
2号館	2155.05	21	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
3号館	2609.31	13	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
4号館	3125.59	16	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
5号館	4113.15	29	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
管理棟1	207.23	5	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
管理棟2	98.88	4	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
厩舎棟	396.00	8	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
第1体育館	3819.78	16	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
第2体育館	1889.03	12	鉄筋コンクリート造切妻屋根3階建	〃
クラブハウス	422.10	29	鉄筋コンクリート造2階建	〃
プール施設棟	337.58	2	鉄筋コンクリート造2階建	〃
施設管理棟	122.40	4	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平屋建	〃
その他	152.38			〃
計	26892.41	220		
合 計	39650.03	354		

備考（その他／機械室6.62㎡ 倉庫東、西47.95㎡ 渡り廊下67.50㎡ テニスコート部室30.31㎡）

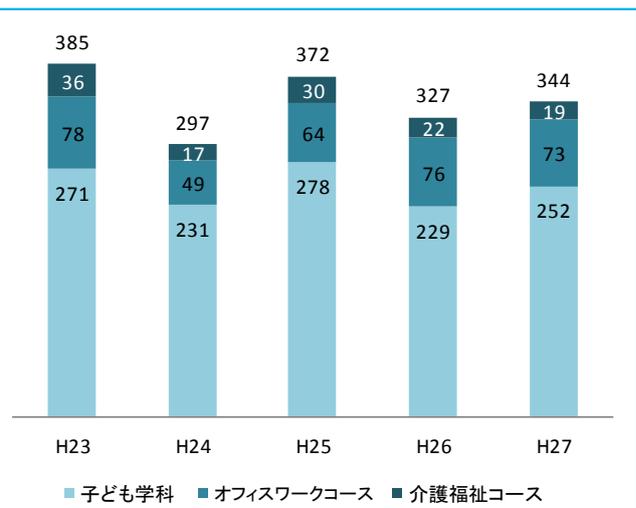
# 学生・生徒 志願者数推移

(平成27年5月1日現在)

## 短期大学

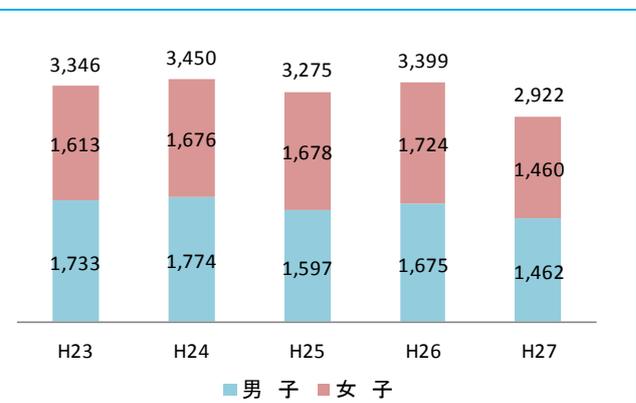
(単位：人)

	H23	H24	H25	H26	H27
子ども学科	271	231	278	229	252
キャリア育成学科 オフィスワーク コース	78	49	64	76	73
キャリア育成学科 介護福祉コース	36	17	30	22	19
計	385	297	372	327	344



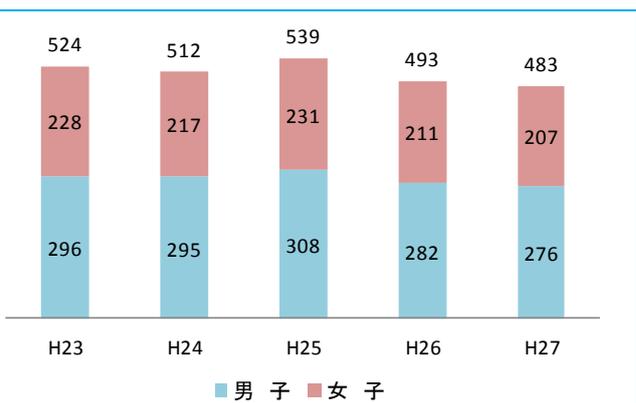
## 高等学校

	H23	H24	H25	H26	H27
男子	1,733	1,774	1,597	1,675	1,462
女子	1,613	1,676	1,678	1,724	1,460
計	3,346	3,450	3,275	3,399	2,922



## 中学校

	H23	H24	H25	H26	H27
男子	296	295	308	282	276
女子	228	217	231	211	207
計	524	512	539	493	483



# 学生・生徒 在籍者数推移

(平成27年5月1日現在)

## 短期大学

区分	項目	H23	H24	H25	H26	H27	
子ども学科	在籍生数	300	309	316	314	313	
	収容定数	300	300	300	300	300	
	充足率	100%	103%	105%	105%	104%	
オフィシャル キャリア ワーク 育成 コース	在籍生数	140	110	104	121	117	
	収容定数	120	120	120	120	120	
	充足率	117%	92%	87%	101%	98%	
キャリア 福祉 コース	在籍生数	57	42	38	42	35	
	収容定数	80	80	80	80	80	
	充足率	71%	53%	48%	53%	44%	
計	在籍生数	497	461	458	477	465	
	収容定数	500	500	500	500	500	
	充足率	99%	92%	92%	95%	93%	

## 中・高等学校

区分	項目	H23	H24	H25	H26	H27	
高等学校	在学学生数	1,759	1,818	1,801	1,838	1,797	
	収容定数	1,710	1,725	1,695	1,705	1,690	
	充足率	103%	105%	106%	108%	106%	
中学校	在学学生数	620	602	605	600	574	
	収容定数	600	600	600	600	580	
	充足率	103%	100%	101%	100%	99%	
計	在学学生数	2,379	2,420	2,406	2,438	2,371	
	収容定数	2,310	2,325	2,295	2,305	2,270	
	充足率	103%	104%	105%	106%	104%	

## 学生・生徒 進路状況

### 短期大学

卒業生・進学者・就職者数

(平成28年5月1日現在)

	子ども学科	キャリア育成学科		合計	摘要
		オフィスワーク	介護福祉		
卒業生	141	60	17	218	
就職希望者	139	57	15	211	
就職決定者	139	56	15	210	
未内定者(活動中)	0	1	0	1	
進学者	0	1	0	1	専門学校等
その他	2	2	2	6	家事従事等

過去3ヶ年の公務員試験合格者

●子ども学科

市町名	職種	現役学生			卒業生			計		
		H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27
津市	保育士	2	1	1	3	3		5	4	1
〃	幼稚園教諭				1			1		
四日市市	保育士						2			2
伊勢市	保育士	1		1		1	1	1	1	2
松阪市	保育士・幼稚園教諭	2	2	1	1	2	2	3	4	3
桑名市	保育士・幼稚園教諭				1			1		
鈴鹿市	保育士	1	2	1	1			2	2	1
亀山市	保育士・幼稚園教諭		1						1	
鳥羽市	保育士			1		1	1		1	2
志摩市	保育士			1						1
伊賀市	保育士・幼稚園教諭			1						1
菰野町	保育士・幼稚園教諭		1						1	
多気町	保育士		1	3		1			2	3
明和町	保育士・幼稚園教諭	1	1	1				1	1	1
大台町	保育士	1	2	1				1	2	1
玉城町	保育士		1			1			2	
度会町	保育士	2						2		
大紀町	保育士				1			1		
計		10	12	12	8	9	6	18	21	18

●キャリア育成学科 オフィスワークコース

年度	採用試験名	職種	現役学生	卒業生	計
H25	度会町職員	事務	1		1
H26	裁判所職員	事務	1		1
H27	弥富市役所	事務	1		1

主な就職先・配属先

(平成28年5月1日現在)

子ども学科	(公立)鵜方幼稚園 高岡幼稚園 みさと幼稚園 斎宮幼稚園 双葉幼稚園 八郷中央幼稚園 安濃保育園 香良洲保育園 川合保育園 雲出保育園 相可保育園 二見浦保育園他 (私立)道伯幼稚園 ときわ幼稚園 羽津文化幼稚園 ひかり幼稚園 まきば幼稚園 亀山愛児園 神戸保育園 すぎのこ保育園 高田保育園 長太の浦保育園 藤水保育園他				
キャリア育成学科	<table border="1"> <tr> <td>オフィスワーク</td> <td>株朝日ガスエナジー イセツト株 株エムワン 株サイネックス J A伊勢 J A多気郡 J A三重中央 株第三銀行 株トヨタレンタリース三重 ネットトヨタノヴェル三重株 パイロットインキ株 株百五銀行 百五オフィスサービス株 三重いすゞ自動車株 株三重銀行 三重ダイハツ販売株 株ミエライズ 株メディカルー光 株八神製作所 弥富市役所他</td> </tr> <tr> <td>介護福祉</td> <td>鈴鹿聖十字会 青山里会 聖マッテヤ心豊苑 聖母の家安濃 富田浜病院 報徳園 村瀬病院 和順会他</td> </tr> </table>	オフィスワーク	株朝日ガスエナジー イセツト株 株エムワン 株サイネックス J A伊勢 J A多気郡 J A三重中央 株第三銀行 株トヨタレンタリース三重 ネットトヨタノヴェル三重株 パイロットインキ株 株百五銀行 百五オフィスサービス株 三重いすゞ自動車株 株三重銀行 三重ダイハツ販売株 株ミエライズ 株メディカルー光 株八神製作所 弥富市役所他	介護福祉	鈴鹿聖十字会 青山里会 聖マッテヤ心豊苑 聖母の家安濃 富田浜病院 報徳園 村瀬病院 和順会他
オフィスワーク	株朝日ガスエナジー イセツト株 株エムワン 株サイネックス J A伊勢 J A多気郡 J A三重中央 株第三銀行 株トヨタレンタリース三重 ネットトヨタノヴェル三重株 パイロットインキ株 株百五銀行 百五オフィスサービス株 三重いすゞ自動車株 株三重銀行 三重ダイハツ販売株 株ミエライズ 株メディカルー光 株八神製作所 弥富市役所他				
介護福祉	鈴鹿聖十字会 青山里会 聖マッテヤ心豊苑 聖母の家安濃 富田浜病院 報徳園 村瀬病院 和順会他				

## 高等学校

### 卒業生・進学者・就職者数

		男	女	計
三年制	I類	93	124	217
	II類	100	109	209
六年制		108	80	188
計		301	313	614

### 進学合格者のべ数

		三年制				小計	六年制		小計	合計
		I類		II類			現	卒		
		現	卒	現	卒					
大学 四年制	国立	0	0	17	1	18	80	26	106	124
	公立	0	0	8	2	10	12	2	14	24
	私立	143	16	253	36	448	303	88	391	839
文部科学省所管外		0	0	1	0	1	3	2	5	6
海外		0	0	4	0	4	0	0	0	4
短大	公立	5	2	5	0	12	1	0	1	13
	私立	59	0	13	0	72	0	0	0	72
国公立各種・専門学校		3	0	7	0	10	0	0	0	10
私立各種・専門学校		48	0	28	2	78	0	0	0	78
就職		9	0	3	0	12	0	0	0	12
合計		267	18	339	41	665	399	118	517	1182

### 主な進学先

(平成28年4月4日現在)

国公立大学 148名		(医学科 37)			
東京大学 12	大阪大学 9	一橋大学 1	横浜国立大学 4		
京都大学 7	北海道大学 4	筑波大学 2	三重大学 30		
(医学科 3)	(獣医学部 2)	(医学群 2)	(医学科 15)		
名古屋大学 10	東北大学 1	神戸大学 5	名古屋市立大学 3		
(医学科 2)	(医学部 1)	(医学科 1)	(医学科 1)		
私立大学 839名		(医学科 37)			
慶應義塾大学 13	中央大学 10	関西大学 14	南山大学 17		
(医学部 1)	明治大学 11	近畿大学 22	中京大学 27		
早稲田大学 24	同志社大学 40	自治医科大学 3	名城大学 38		
上智大学 3	立命館大学 57	愛知医科大学 13	皇學館大学 50		
東京理科大学 32	関西学院大学 14	愛知大学 20	鈴鹿医療科学大学 30		
短期大学 85名		所管外大学校等 6名		(医学科 4)	
高田短期大学 53	三重短期大学 12	防衛大学校 1	防衛医科大学校 4		
海外大学 4名					
Cornell College 1	Drury University 1	Juniata College 1	Washington College 1		

## 事業実績の概要

### 理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況

平成27年度は高田学苑寄附行為に基づき、計3回の理事会、3回の評議員会が開催されました。また、高田学苑では私立学校に義務付けられている監査法人及び監事の監査に加え、内部監査委員による監査を行い、学校法人におけるガバナンスが適切に機能しているか、外部及び内部から監督・指導を受けています。平成27年度に行われた各会の開催日と議題は以下になります。

理事会	
平成27年5月29日（金）	高田学苑多目的グラウンド整備事業に係る予定価格の決定について 高田学苑多目的グラウンド整備事業に係る請負業者及び請負金額の決定並びに請負契約の締結について 平成26年度決算の承認について 高田学苑多目的グラウンド整備事業に係る借入金について
平成27年11月6日（金）	平成27年度第1回収支補正予算について 学校法人高田学苑勤務規則の一部改正（案）について 学校法人高田学苑給与規程の一部改正（案）について 高田短期大学学則の一部改正（案）について 高田短期大学私費外国人留学生授業料等軽減措置規程の一部改正（案）について 学校法人高田学苑個人情報保護規程の制定（案）について 個人情報及び特定個人情報取扱規則の制定（案）について
平成28年3月25日（金）	不動産の取得について 平成27年度第2回収支補正予算（案）について 平成28年度収支当初予算（案）について 学校法人高田学苑勤務規則の一部改正（案）について 学校法人高田学苑資金運用管理基準の一部改正（案）について 高田短期大学学則の一部改正（案）について 高田短期大学学長の選任について
評議員会	
平成27年5月29日（金）	平成26年度決算の承認について 高田学苑多目的グラウンド整備事業に係る借入金について
平成27年11月6日（金）	平成27年度第1回収支補正予算について
平成28年3月25日（金）	不動産の取得について 平成27年度第2回収支補正予算（案）について 平成28年度収支当初予算（案）について
監事会	
平成27年5月22日（金）	平成26年度短期大学及び中高等学校概要報告 平成26年度決算審査関係 決算審査関係質疑応答及び実査 平成26年度事業実績報告 内部規則等の総点検・見直しについて 質疑応答

平成27年11月2日(月)	平成27年度短期大学及び中高等学校概要報告 平成27年度第1回補正予算書及び現預金状況 平成27年度事業実績報告(中間) 質疑応答及び実査	
<b>内部監査委員会</b>		
平成27年5月19日(火)	平成26年度短期大学及び中・高等学校概要報告 平成26年度事業実績報告	平成26年度決算概要報告 学苑管理運営等について(質疑応答)
平成27年10月30日(金)	平成27年度短期大学及び中・高等学校概要報告 平成27年度事業実績報告(中間) 現金、預金及び有価証券の状況 学苑管理運営等について(質疑応答)	

## 監査法人監査報告

<b>監査法人監査</b>		<b>監査法人名：五十鈴監査法人</b>	
平成27年		9月16日(水)	平成27年8月までの取引記録
4月3日(金)	現金、通帳、証書の実査	12月21日(月)	平成27年11月までの取引記録
5月15日(金)	平成26年度決算監査	平成28年	
5月18日(月)	〃	2月22日(月)	短大部門の取引記録
6月12日(金)	〃	3月23日(水)	平成28年2月までの取引記録

## 安全管理への取り組み

### AED(自動対外式除細動器)設置(8台)

<b>短期大学</b>	
1号館	1階正面玄関
<b>中・高等学校</b>	
本館	1階正面玄関(地域住民への対応)
4号館	1階保健室
第1体育館	2階体育教官室
西グラウンド管理棟1	2階管理室
西グラウンド管理棟2	2階管理室
西グラウンド厩舎棟	1階管理室前(外部)
多目的グラウンド	クラブハウス横倉庫 <b>new</b>



### 地域避難所(体育館)の指定・防災倉庫の設置

高田学苑は津地域避難所として指定されています。これに伴い短期大学及び中・高等学校に防災倉庫を設置し、備蓄品の保管をしています。生徒・教職員は勿論のこと地域住民の皆様方が災害時における危険回避のための避難が円滑に行われるように、避難場所の周知を行っています。



## 非常食等の備蓄

東海地方では、近い将来東海・東南海連動型地震が発生することが危惧されています。東日本大震災の教訓を生かし、いつ、どこで起こるか分からない災害に備え、本学苑では昨年度より学生生徒及び教職員の非常食等備蓄品（白い小箱）の導入を行っています。



この「白い小箱運動」は単なる非常食等備蓄品の保管に留まらず、詰め込み・搬入作業を行う障がい者の方々の就労支援や、非常食等備蓄品を学生生徒が卒業時に寄付する事で、海外で援助を必要としている人たちや周辺地域の方々への援助など、社会貢献活動として意義のあるものとなっております。

## 緊急地震速報受信システムの運用

平成22年12月より中・高等学校及び短期大学に緊急地震速報受信システムを導入しています。これは震度5弱以上の地震が発生した場合、津地区に大きな揺れが到達する前に、校内に一斉放送で知らせることにより、生徒及び教職員の安全を確保するものです。



防災訓練では実際にこのシステムを利用して、震度5弱の地震を想定した放送を流し、生徒・教職員及び地域住民の方の避難訓練に役立てています。

## ポケット防災ガイドの配布

大規模な地震が発生すると予想されている昨今、地震発生時に学生生徒及び教職員がスムーズに避難できるように災害発生時の対応をマニュアル形式で記載した名刺サイズの防災ガイドを、短期大学・中高等学校別に作成し、新入生と本年度採用教職員に配布しました。

近年は地震のみならず台風や大雨などによる甚大な被害も全国各地で起きていることから、地震・津波・風水害・火災それぞれに対応できるよう色分けをして記載しています。

学生生徒及び教職員はこの防災ガイドを常に携帯し、今後災害発生時の対応に役立ててくれるよう啓蒙活動にも力を入れていきます。

## 短期大学

### 防災訓練の実施

文部科学省からの総合防災訓練大綱に基づき、地震等の災害に対する意識高揚を図る為、避難誘導、非常持ち出し品の搬出、負傷者の救護、消防署の指導による消火器の取扱などを内容とした防災訓練の実施を10月5日（月）14時30分より行いました。

## 中・高等学校

### 緊急災害時避難場所開設フローチャート・防災ボックスの設置

中・高等学校が津市の地域防災一次避難所に指定され、防災倉庫が設置されたことにより、高田

学苑においても周辺地域の避難場所としての責務に応える必要があります。

緊急災害時の混乱が予想される状況において、迅速に避難所を開設するために、「緊急災害時避難場所開設フローチャート」を掲示しています。このチャートを事務職員の意識付けに役立て、緊急災害時における迅速な避難場所の開設に役立てていきたいと思ひます。

また、第一体育館の入口には震度5弱の揺れで自動的に解錠される防災ボックスを設置しています。ボックス内には体育館の鍵が入っており、万が一大きな揺れが発生した場合、誰でも鍵を開けて中に避難することができるようになっています。



## 防災訓練の実施

中・高等学校においては、昨年度に引き続き本年度も一身田自治会の方との合同避難訓練を9月2日（水）に実施しました。昨年度の一身田桜町・中区・北区に加え、本年度は東区の方にもご参加いただきました。

第一体育館1階に集合後、地震発生時に自動的に鍵が開く防災キーボックス及び鍵の説明を受け、実際に地震や津波が発生した際に安全な体育館へ速やかに避難できるよう、地域の方の意識付けを行いました。そして、緊急地震速報の発令と同時に体育館からグラウンドへ自治会毎に避難していただきました。

その後、津市北消防署の協力の下、中学生は起震車体験、高校生はバケツリレー消火訓練などの各種体験訓練を行いました。昨年度の教訓を生かし、本年度はより多くの生徒が参加できるよう内容を充実させ、防災意識を高める工夫を行いました。

各種体験訓練に続いて、3.5mの大津波警報が発令されたとの想定の中で生徒は3階以上の校舎へ、地域の方は第一体育館2階へ避難しました。併せて、高田福祉事業協会指導の下、車いすによる避難訓練も行いました。体育館2階では日本非常食推進機構提供による非常食の試食会や、津市北消防署の方々によるAED・救護訓練を拝見し、地域の方が災害に備える意識を持つ大切な機会になったことと思ひます。

当日は天候にも恵まれ、生徒約2,400人、教職員約200人、地域住民約150人総勢約2,750人が参加し、報道機関も取材に訪れる大規模なものとなりました。

本学苑は来年以降も引き続き地域の方との合同防災訓練を計画し、防災意識の高揚に努めていきたいと思ひます。



## 非常食等備蓄品（白い小箱）の寄付

先述の一身田自治会との合同防災訓練の最後に、地域の方へ「白い小箱」の贈呈式を行いました。「白い小箱」は各自治会の代表者に贈呈され、今回防災訓練に参加して頂いた方や高齢の一人暮らし世帯に200個寄付しました。

また、日本非常食推進機構を通じ、海外への食糧支援として本年度は500個、津市内の児童養護施設へ300個寄付しました。これらは学生・生徒が卒業時に「白い小箱」を地域の方々や食糧援助を必要とする海外に寄付することで社会貢献活動に参加する「白い小箱運動」の一環であり、

昨年度に日本非常食推進機構と締結した「災害用物資を活用した防災活動に関する協定」に基づき、今後もこの活動を推進していきます。

	寄付数
地域住民へ	200
海外へ	500
津市へ	300
計	1,000



## 夏期研修

毎年実施しております教職員研修会は、本年度も平成27年8月20日（木）に高田高等学校本館の講堂において、教職員約200名、保護者約50名、周辺地域住民約20名合計約270名の参加者を迎え盛大に開催されました。

冒頭の高臣学苑長の挨拶から始まり、第一部は現在熊野市立木本中学校長として教育活動に携わる傍ら、結工房「夢のかぼちゃ」代表として手づくりの歌と話を通した「人権トークライブキャラバン」などの活動を全国各地で開催されている長島りょうがん氏を講師に迎え、「結～そっとやさしく」と題するトークライブを行って頂きました。



絵本の朗読やピアノ演奏と歌を交えた五感に訴える講演は会場を一気に飲み込み、多くの聴衆の涙を誘いました。相手の気持ちを考えて行動するにはひとりでは難しいことから、「ひとりにさせない」ことの大切さ、「ひとりにならない力をつける」ことの大切さを訴え、私たち大人が子ども達に出来ることは「ひとりじゃない」ということを行動や言葉でしっかりと伝えることだと改めて教えて頂きました。

第二部は三重大学医学部附属病院外科系診療科で子ども達のこころの発達の診療を専門に活躍されている鈴木大氏にお越し頂きました。

不登校や虐待など子ども達を取り巻く問題が複雑化し価値観が多様化する現在、氾濫する情報の中から適切なものを選択するということが難しくなっています。また、SNSの急速な普及により同世代間でのコミュニケーションの変化も著しく、心の中にさまざまな問題を抱える子ども達が増えています。「思春期・青年期のこころの発達」と題した今回の講演では、思春期を「依存」と「自律」の両価性の時期と捉え、子ども達の自尊心をいかにして高めるかが重要であると説明して頂きました。日頃から思春期・青年期の子ども達と接する機会が多く、その関わり方を模索している教職員や保護者にとって大変興味深い内容であり、質問も数多く寄せられました。



## 教職員健康診断

平成23年度より夏期休暇中に実施をしている健康診断を本年度も8月3日（月）、4日（火）、5日（水）の3日間で開催しました。

検査項目については学校保健法、結核予防法、労働安全衛生法などで定められた項目を遵守し、教職員約200名が受診しました。

また、昨年度まで秋に実施しておりました乳がん及び腹部エコー



任意検診も同期間に行われ、多様な検診を一度に受診できるようになりました。検査結果は個人に直接通知され、教職員の健康管理に役立てると共に、この結果をもとに高田学苑の産業医である岩崎病院に健康管理に役立つ適切な指導・助言を行って頂いております。

## 高田学苑多目的グラウンド整備事業

### 土地の取得

高田学苑多目的グラウンド整備事業の開始に先立ち、地権者・津市・三重県より11,215㎡の土地を取得いたしました。

### 入札・請負業者の決定および起工式

高田学苑多目的グラウンド整備事業の請負業者を決めるにあたり、平成27年5月29日（金）の理事会において予定価格の決定および入札を行いました。入札の結果、請負業者は東海土建（株）に決定し、同日契約を締結しました。



続いて、平成27年6月15日（月）11時よりグラウンド完成予定地において起工式を執り行いました。起工式には施工業者である東海土建（株）をはじめ、監理業務を委託する中部都市建築設計事務所、高田学苑理事・監事の方々並びに学校関係者にご出席いただきました。

### グラウンドの完成

かねてより進めておりました多目的グラウンドがこの度完成し、平成27年12月25日（金）に東海土建（株）より引き渡しを受けました。

多目的グラウンドには、サッカーコート一面、テニスコート二面、駐車場等が設置されています。サッカーコートとテニスコートは耐久性・透水性に優れた人工芝でできており、転倒してもケガの少ない仕様となっています。また、照明設備も完備しており、夜間の練習にも対応しています。

名称	面積（㎡）
テニス・サッカーコート	5,728
駐車場	2,470
その他（通学路・緑地等）	3,014
計	11,212



### 竣工式典・祝賀会

多目的グラウンドの竣工を記念し、平成28年1月22日（金）に多目的グラウンド特設会場にて竣工式が執り行われました。当日は真宗高田派前法主殿、三重県戦略企画部長をはじめ、施工業者・監理業者並びに高田学苑理事・監事・評議員の方々、学校関係者にご出席いただきました。



また、竣工セレモニーとして完成したグラウンドで女子サッカー部宮本監督と高田幼稚園園児によるサッカー教室が行われ、真冬の空の下、園児たちは元気いっぱいにボールを蹴りました。参加者には「みえ高田FC」オリジナルの缶バッジをプレゼントしました。

竣工式の後は高田会館へ場所を移し、祝賀会が開催されました。



## 通学路の確保

本学苑には中学生、高校生合わせて約2,400名が在籍しており、そのうち約1,020名の生徒がJR一身田駅を利用しています。駅からは一身田町内を通り徒歩5分で学校まで通学しますが、町内の道幅が狭いため、通勤時間帯と重なる朝の登校時には往来する車の通行の妨げになっていました。そこで生徒の通学の安全を確保するために、多目的グラウンドの南端に私道を設置し、一身田駅へ繋がる通学路を整備しました。



## みえ高田FC (U-15)の発足

このたび、高田学苑高田短期大学傘下のもと、県内の中学生世代を対象とした女子サッカーのクラブチーム「みえ高田FC」を設立しました。

中学・高校・短期大学と概ね8年間の長期計画の中でサッカーを通じて優れた人材を育成し、県内の企業に輩出するとともに、短期大学と企業との連携により次世代のサッカー選手の育成を実現したいと考えております。なお、クラブチームは平成28年4月より運営を開始します。練習は新しく完成した多目的グラウンドで行う予定です。

またこの事業は、三重県の「高等教育機関魅力向上支援事業」に採択され、「未来」・「夢」・「実現」応援プロジェクトに取り組むこととなりました。三重県内の学生の確保、学生の県内就職を支援し、高等教育の魅力を向上させることにより、三重県の人口減少の抑制と地域の自立的・持続的な活性化に資することが目的とされています。



## 役員・教職員の表彰

役員表彰	12月9日(水)
理事	井村 正勝 三重県教育功労者(三重県教育委員会)

平成13年から平成21年まで8年の永きにわたり、県教育委員会委員、県教育委員会委員長(2年間)として教育行政に携わり、広く学校教育の充実、スポーツの振興、生涯学習の推進等に尽力されました。また、地域の自然や文化、文化財を継承する「紀伊山地の霊場と参詣道」について、関係市町村および奈良県、和歌山県と協働し、平成16年7月に世界遺産に登録されるまでその実現に尽力されました。

これらの栄誉をたたえ、三重県教育委員会より平成27年度教育功労者表彰(教育行政功労)が行われたことを受けまして、学苑長より本年度の役員表彰を受賞されました。



特別表彰	11月4日(水)
中・高等学校	1名

昭和53年に高田高等学校の講師に着任して以来、理科教諭として尽力され、特に生物・地学教育に力を注いでこられました。生物教育では津市の植物調査の一員として活躍する傍ら、天文教育にも力を注がれ、過去には全国プラネタリウムコンテストにおいて最優秀賞受賞へと導きました。

平成25年からは進路指導部長として高校全体を統括し、責任者として業務を遂行しており、平成27年度三重県私学大会において優良教職員表彰を受賞されました。こうした栄誉をたたえ、学苑長より本年度の特別表彰を受賞されました。



永年勤続表彰		
短期大学	11月9日(月)	計 1名
35年勤続		1名
中・高等学校	11月4日(水)	計 27名
40年勤続		3名
35年勤続		2名
30年勤続		2名
20年勤続		8名
15年勤続		5名
10年勤続		7名



## 教職員の異動状況

平成27年度に採用及び退職された教職員は以下のとおりです。

採用				退職		
短期大学				短期大学		
	新規採用	再雇用	任用替		再雇用	完全退職
助教			1	教授	2	
本務職員	1		1	特任教授	1	
嘱託職員	2			准教授	1	
非常勤職員	1			助教		2
中・高等学校				中・高等学校		
教諭	2	10	4	本務職員		1
専任職員		1		嘱託職員		1
講師		8		非常勤職員		1
嘱託職員		1		教諭	6	1
講師嘱託	2			本務職員		1
非常勤講師	5	3		非常勤講師		3
非常勤職員	1			非常勤職員		1



## 給付型奨学金・授業料等減免（助成）・短期大学入学金免除制度

高田学苑では、保護者や学生の経済的な負担を軽減する目的から、各種奨学金・授業料等減免制度を設けています。なお、これらの奨学金は給付型であり、すべて返済不要となっています。

### 短期大学

高田短期大学奨学金	
対 象	子ども学科およびキャリア育成学科オフィスワークコース学生
目 的	建学の精神に照らし、経済的に学業の継続が困難と判断され、学業・人物に優れた学生に対して奨学金を給付し、学業奨励を支援する
決定者	28名（子ども学科8名、オフィスワークコース20名）
奨学金額	4,200,000円（一人あたり年額15万円給付）
高田短期大学介護福祉士就労予定者奨学金	
対 象	キャリア育成学科介護福祉コース学生
目 的	建学の精神に照らし、特に学業・人物に優れた学生で卒業後介護施設に就職する予定であるすべての学生(外国人留学生を除く)を支援する
決定者	34名（1年生17名、2年生17名）
奨学金額	6,800,000円（一人あたり年額20万円給付）
高田短期大学私費外国人留学生授業料等減免措置	
対 象	高田短期大学に在学する私費外国人留学生
目 的	授業料・施設設備整備費・教育充実費等の経済的負担を減免する
決定者	6名（全額免除1名、減免5名（減免率50%））
減免金額	2,455,000円

### 高等学校

高田高等学校授業料等生徒納付金助成					
対 象	高田高等学校に在籍する生徒の保護者				
目 的	授業料等生徒納付金を無償化または減額し、保護者の経済的負担の軽減を図る				
決定者		I・4年	II・5年	III・6年	合 計
	授業料等生徒納付金が無償となる世帯	37	32	33	102
	授業料等生徒納付金が減額となる世帯	24	38	21	83
	合 計	61	70	54	185
助成金額	11,765,500円				

授業料等生徒納付金とは授業料と教育充実費の合計をいいます。なお、無償または減額となる基準は、高等学校等就学支援金の基準（保護者の所得状況）に準じます。

また、高田高等学校を卒業し高田短期大学に入学する場合、入学金（28万円）が免除される入学金免除制度もあります。過去3ヶ年の高田高等学校からの進学者数は以下のとおりです。

	25年度入学	26年度入学	27年度入学
人 数	43	35	39

# 教育活動の実績

## 高田短期大学

### 時代・社会の変化に即応した取り組み

#### 学士力向上を目指した教育課程等の展開

##### 新しい共通教養科目のスタートと次年度へつなぐ課題

「学位授与方針（ディプロマポリシー）」の「共通到達目標」に対応し、全学共通の教養科目を12科目設定し今年度スタートしました。また、従来からの課題であった「単位の実質化」については15回の授業回数と定期試験を区分することを検討し、平成28年度より実施します。さらに、プレアドミッション教育と連動した「スタートアップ・ゼミナール」（1年次前期）についても検討を重ね、平成28年度スタートとなりました。

##### IRの充実

今年度新たにIR本部長を設置し、運営会議の一員としました。大学への進学率が5割を超え、またグローバル化の進展により多様な学生が入学するようになり、全国的に大学改革が進められています。本学においても学長のリーダーシップのもと改革を進めております。今年度後期は学修成果の具体的な把握（学修成果の可視化）のために、ルーブリック評価の導入を検討しました。

##### 学生支援の充実

障害のある学生や外国人留学生等配慮を要する学生が入学するようになり、ガイドライン等の整備が求められつつあります。今年度は、学生支援特別委員会でその都度必要な対応をして学生支援を行いました。

### 主体性・協調性を育む短大生活支援

#### 新入生宿泊研修

2年間の短大生活を有意義に過ごすため、新入生オリエンテーション行事の締めくくりとして、宿泊研修を実施しました。高田短大生として自立心、協調性を養うとともに、学生・教員相互の理解と親睦を深める研修目的を参加者全員が自覚し、取り組むことができました。

新入生宿泊研修	
日時	4月30日（木）～5月1日（金）1泊2日
会場	COCOPA RESORT CLUB 白山ヴィレッジゴルフコース （津市白山町川口6262）
参加者	1年生及び教員全員、関係職員
研修内容	学長講話 子ども学科 「すてきな保育者になるために」 「つくって、あそんで、みせて2015」 キャリア育成学科 「グループワーク〈先生にインタビュー〉」 レクリエーション、パターゴルフ等



## 学生自治会主催イベント

本学伝統の自治会活動では、2年生の執行部役員に加え、1年生から学生自治会サポートメンバーを募り、各学生が自らの役割を考えて行動し、課題を解決していく「異学年共同コミュニティ」の形成を目指しています。自治会活動を教職員が支え、年間を通して種々の行事を企画実施しています。

<b>学生生活相談会</b>	
日 時	4月7日（火）～4月14日（火）
場 所	2号館1Fロビー前
内 容	新年度開始直後の1週間に自治会執行部役員によるブースを設け、科目履修、部活動、アルバイト、就活等について新入生の相談に応じました。
<b>学生親睦会（バーベキュー大会）</b>	
日 時	5月16日（土）12:00～16:00
場 所	本学馬場跡地
内 容	学生の親睦を深めるため、野外バーベキューとゲーム大会を行いました。当日は午前中雨が降っていたため開催が危ぶまれましたが、午後は持ち直し約200名の学生・教職員が参加し、大盛況の催しとなりました。
<b>ランチタイムコンサート</b>	
日 時	7月20日（月・祝）昼休み
場 所	本学カフェテリア内特設ステージ
内 容	ポップス吹奏楽部による演奏が行われました。
<b>第50回高短祭</b>	
日 時	10月24日（土）・25日（日）
内 容	今年度はやや風が強い日もあり、少し心配もありましたが概ね天候にも恵まれ、二日間を通しての一般来場者数は2千人を超えるという大きな盛り上がりを見せました。今回は初めて試みるイベントもあり不安でしたが、教職員の皆様のサポートにより大盛況のイベントとなりました。
<b>TJC祭（スポーツ大会）</b>	
日 時	1月16日（土）
場 所	体育館
内 容	卒業間近の2年生が後輩に高短の伝統を引き継ぐ節目の行事として、参加者全員が体を動かすことで真冬の寒さに挑みました。
<b>食堂抽選会</b>	
日 時	第1回 10月30日（金）第2回 1月22日（金）
内 容	昨年度に引き続き短大カフェテリアにおいて抽選会を開催しました。食堂の利用学生を増やす目的で、(株)フレンドと共催という形で食堂のメニューを注文した学生に抽選券を配布し、週末の昼休みに抽選会を行いました。



## 生活講座

日時	7月6日(月) 14:40～16:10		
場所	本学1号館4階 講堂	参加者	約270名
テーマ	「ストレスについて一緒に考えよう」		
講師	富永礼子保健室担当、橋本景子特任准教授		



## 女子サッカー部創部

本学では、女子サッカー界で世界的に活躍された元なでしこジャパンの宮本ともみ氏を監督に迎え、女子サッカー部を創部しました。女子サッカーは、2011年FIFA女子ワールドカップで「なでしこジャパン」が優勝し、世界一の快挙を成し遂げたことによって、近年では女子サッカーチームをもつ高校・大学（短大含む）数が増加し、クラブチームとともに発展しています。ところが、現在三重県では、女子サッカー部をもつ大学・短大等はありません。そこで本学では、宮本氏を指導者に迎え、将来県内外で活躍する選手を育てていきたいと思ひます。



## キャリア教育・キャリア支援の充実

### キャリア教育の推進

各学科・コースの特色に応じて、教養科目・専門科目の各授業と進路ガイダンス、プレ就職講座、就職講座を関連づけ、キャリア教育を推進しています。

		26年度入学生(2年生)	27年度入学生(1年生)
子ども学科		就職講座 6回実施	進路ガイダンス 4回実施 就職講座 6回実施
キャリア育成学科	オフィスワークコース	就職講座 7回実施	プレ就職講座 6回実施 就職講座 6回実施
	介護福祉コース	就職講座 4回実施	プレ就職講座 1回実施 就職講座 4回実施

### 公務員試験・教養試験対策講座受講者数(外部講師)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
1年生	97人	85人	87人	94人	85人
2年生	47人	45人	26人	37人	47人

26年度入学生(現2年生)は、3月12日から8月25日まで18回実施

27年度入学生(現1年生)は、9月1日から12月15日まで15回実施

※本年度も、公務員試験対策・保育専門対策講座を実施しました。

外部講師により5月9日から8月24日まで10回実施。

受講者 子ども学科 2年生 33名

## 求人開拓の取り組みと学生への支援

キャリア支援センターに4名のキャリアサポーターを配置している他、昨年度からキャリアカウンセラーを1名配置し、学生の進路相談をはじめ、就職活動の支援をきめ細かく実践しました。



## 早期離職の防止対策と卒業生への支援

今春の未就職あるいは離職した卒業生に対しては、継続して支援を行っています。早期離職防止の講座については、2学科合同で2月18日（木）に実施しました。

### 「キャリアカルテ」の活用による教職協働の推進

就職支援システム「キャリアカルテ」を核としたwebサイト上のネットワークである「高短キャンパスネット」の学生、教職員双方の積極的なを進める努力をしました。



## 学生募集と高大交流事業

### 高大教育交流事業

今年度の交流事業の実施内容は以下のとおりです。（協定校13校および高田高等学校での実績）

出張ガイダンス（※協定校へ出向いて学校ガイダンスを行う）

月日	曜	時間	高校名	出席者	形式	対象	人数
5月9日	土	13:30～ 14:30	久居	梶間	学校別説明会	2・3年	15
		14:45～ 15:45				保護者	15
5月13日	水	13:05～ 13:50	白子	竹内	分野別説明会（幼児教育・保育）	3年	27
				岡田	分野別説明会（経理・事務）	3年	12
5月16日	土	11:00～ 12:00	高田	鷺尾	保護者向け説明会	保護者	—
5月27日	水	12:50～ 14:15	いなべ 総合	竹内	職業別説明会（幼児教育・保育）	1	9
		15:30～ 16:15			学校別説明会	全学年	56
6月1日	月	14:15～ 15:20	四日市 四郷	竹内	学校説明会（AOに関する説明）	3年	8
6月3日	水	10:55～ 12:45	明野	増亦	学校別説明会	3年	7
6月3日	水	14:50～ 16:00	飯野	梶間	学校別説明会（幼児教育・保育）	3年	2
7月3日	金	11:15～ 13:05	高田	梶間 竹内	学校別説明会	2・3年	54
7月3日	金	10:00～ 10:30	津商業	杉浦	分野別説明会（ビジネス）	2年	6
7月8日	水	13:15～ 15:05	四日市西	岡田	分野別説明会（経理・事務）	2年	14
7月10日	金	13:00～ 14:30	亀山	竹内	短大入試説明	3年	20
7月15日	水	10:00～ 14:30	津商業	増亦 竹内	学校別説明会	2年	20

7月15日	水	10:00～ 12:00	四日市 四郷	梶間	学校別説明会	全学年	2
9月4日	金	14:05～ 15:50	いなべ 総合	梶間	学校別説明会	2年	7
10月7日	水	13:20～ 15:30 13:20～ 15:30	いなべ 総合	畠山 増亦	分野別説明会 (販売・サービス) (保育)	1年	74 24
10月28日	水	14:45～ 15:35	松阪 商業	増亦	分野別説明会 (保育)	1年	10
		14:45～ 15:35		竹内	分野別説明会 (販売・営業)	1年	15
11月4日	水	14:35～ 15:35	松阪 商業	竹内	分野別説明会 (①保育、幼児教育) (②ショップ、販売)	2年	13
11月18日	水	13:10～ 13:40	白子	竹内	分野別説明会 (保育・幼児教育)	2年	20
11月18日	水	14:25～ 15:10	亀山	増亦	分野別説明会 (保育・幼児教育)	2年	35
12月4日	月	11:10～ 12:40	四日市 四郷	梶間	学校別説明会	2年	8
12月14日	月	13:30～ 14:20	明野	竹内	分野別説明会 (保育・幼児教育)	2年	21
12月15日	火	10:40～ 12:00	飯野	岡田	分野別説明会 (販売・営業・サービス)	1年	4
1月27日	水	14:40～ 16:10	相可	竹内	分野別説明会 (保育・幼児教育)	2年	9
1月27日	水	14:10～ 15:15	四日市 四郷	梶間	分野別説明会 (保育・幼児教育)	1年	27
2月15日	月	12:50～ 13:50	四日市商 業	竹内	分野別説明会 (保育・幼児教育)	1年	17
2月16日	火	12:50～ 13:50	四日市商 業	田中	分野別説明会 (事務・経理)	1年	35
2月17日	水	13:30～ 15:30	白子	梶間	学校別説明会	1・2年	48
3月8日	火	10:45～ 12:25	松阪商業	竹内	学校別説明会	2年	13
3月14日	月	10:50～ 12:20	亀山	竹内	学校別説明会	2年	26
3月16日	水	10:35～ 11:45	明野	竹内	分野別説明会 (保育・幼児教育)	2年	6

出前（模擬）授業（※協定校へ出向いて出前（模擬）授業を行う）							
月日	曜	時間	高校名	担当	形式・内容	対象	人数
6月24日	水	15:50～ 16:50	相可	鷲見	出前講座 「子どもの育ちと食。子どもの心身の発達と栄養・食生活について」	全学年	39
7月 3日	金	10:00～ 12:05	津商業	稲田	出前講座 「保育実践」	2年	13
9月 8日	火	13:45～ 15:00	相可	柳瀬	出前講座 「子どものからだ育てと運動遊び」	3年	18
10月 1日	木	8:50～ 10:40	四日市西	藤重	出前講座 「絵本を通して世界を広げる」	3年	27
11月 6日	金	11:00～ 12:30	亀山	福田	出前講座 「高齢者とのコミュニケーション方法」	2年	5
11月11日	水	13:00～ 14:30	四日市 四郷	畠山	模擬授業 「ライフプラン 働き方の形態」	3年	—
11月11日	水	13:25～ 15:00	白子	杉浦	出前授業 「ビジネスマナー」	3年	—
				福西	模擬授業 「幼児教育・保育」	1年	17
				鷲尾	模擬授業 「経理・事務」	1年	3
12月 9日	水	15:50～ 17:00	宇治山田 商業	千草	出前授業 「心理学入門」	1・2年	17
				中川	出前授業 「福祉現場で求められる人材について」		3
12月10日	木	8:50～ 10:40	四日市西	林	出前授業 「造形教材づくり」	3年	27
1月13日	水	8:45～ 9:45	津商業	岡田	出前授業 「ケースで学ぶ職場の人間関係」	3年	—
1月13日	水	14:45～ 15:35	松阪商業	杉浦	出前授業 「ビジネスマナー」	3年	—
1月22日	金	11:00～ 12:30	亀山	寶來	出前講座 「保育者の専門生」	2年	21
1月27日	水	14:25～ 15:45	飯野	青木	模擬授業 「保育・幼児教育」	1年	9
2月15日	月	13:20～ 15:15	津商業	寶來	模擬授業 「保育・幼児教育」	1年	42
2月17日	水	13:30～ 15:00	久居	小菅	模擬授業 「保育・幼児教育」	2年	18
3月 7日	月	11:00～ 11:50	相可	杉浦	出前講座 「ビジネスマナー」	全学年	—

特別講座・授業見学・施設見学など（本学の講義に出席、本学の施設・設備見学）						
月日	曜	時間	高校名	形式・内容	対象	人数
6月 6日	土	14:00～ 15:30	高田	特別講座 子ども学科 「絵本を通して世界を広げる」（藤重） オフィスワークコース 「三重の産業・経済」（杉浦） 介護福祉コース 「心理学入門」（千草）	2・3年	24  12  5
6月16日	火	13:30～ 15:30	相可	施設見学	3年	18
7月 7日	火	14:00～ 16:00	津商業	施設見学	保護者 生徒 教員	12 15 3
7月17日	金	10:30～ 14:15	四日市 四郷	授業見学、「造形表現法」（林） 「情報基礎演習」（鷺尾） 「介護総合演習Ⅳ」（徳山） 特別講座 子ども学科 「乳幼児の特徴と育児体験」（長倉） オフィスワークコース 「コミュニケーション」（野呂） 介護福祉コース 「介護模擬体験」（徳山）	全学年	15
7月22日	水	9:30～ 15:30	白子	進路ガイダンス（増亦） 特別講座① 「子ども学科で学ぶにあたって」（山本・水野） 特別講座② 「牛乳パックのリサイクル紙作り」（林） 特別講座③ 「子どもの感性と表現の育ち～音楽～」（山本）		9
12月22日	木	13:00～ 14:30	高田	特別講座① 「子どものからだと育て」（柳瀬） 特別講座② 「進学・面接時のポイント」（杉浦）	2・3年	29
3月24日	木	13:30～ 15:00	高田	特別講座① 「子どもの育ちと食」（鷺見） 特別講座② 「いまさら聞けない敬語の基本」（野呂） 特別講座③ 「介護の仕事と魅力」（徳山）	1・2年	21



### 高大教育交流連絡協議会

今年度は以下のとおり協議会を実施しました。

第1回	
日時	6月30日(火) 14:45~16:20
実施内容	平成28年度入試、教育交流事業報告等
第2回	
日時	10月13日(火) 15:00~16:30
実施内容	初年度教育について等
第3回	
日時	1月28日(木) 15:00~16:30
実施内容	高校での基礎学力充実のための実践について等



### 高田高等学校との意見交換会

5月14日(木)に、同学苑の高田高等学校の3年生担任及び進路指導関係教員18名に来学いただき、会食ならびに意見交換、質疑応答を行いました。



### オープンキャンパス実施結果

日時	第1回 6月13日(土) 13:00~16:45 第2回 7月12日(日) 13:00~16:45			
参加者数		第1回 (6/13)	第2回 (7/12)	合計
	子ども学科	148名	158名	306名
	キャリア育成学科			
	オフィスワークコース	58名	58名	116名
	介護福祉	12名	17名 (うち留学生6名)	29名
	計	218名	233名	451名
内容	13:00~13:25	全体説明会		
	13:30~16:45	各学科・コース説明・体験・相談		



## 進学相談会の実施結果

日時	7月4日（土） 13：00～15：00	
参加者数	子ども学科	12名
	キャリア育成学科 オフィスワークコース 介護福祉コース	3名 －
	計	15名
実施スケジュール	子ども学科（会場：121教室） 13：00～15：00 個別・グループ別相談会、校内見学（随時） キャリア育成学科オフィスワークコース（会場：第6演習室） 13：00～15：00 個別相談会、校内見学	



## 地域への社会貢献事業

### 短大全体

#### 高田短期大学公開講座

「みんなで楽しもう運動の世界・育もう体の力」			
日時	6月20日（土）	場所	育児文化室
参加者	15名	受講料	無料
講師	子ども学科 講師 柳瀬慶子		
内容	参加者同士がかかわりながら楽しめるストレッチやダンス、ゲームを行い、他者に対応する体の力を高める運動を体験していただきました。		
「今さら聞けない敬語の基本」			
日時	6月27日（土）	場所	図書館
参加者	17名	受講料	無料
講師	キャリア育成学科 講師 野呂健一		
内容	敬語の誤用例についての解説と共に、敬語が生み出される背景にある日本の文化的特徴、文法、最近の敬語の分類等についても聴講していただきました。		
「楽しく学ぼう！介護予防のための身体づくりのヒント」			
日時	7月4日（土）	場所	介護実習室
参加者	13名	受講料	無料
講師	キャリア育成学科 特任講師 中川千代		
内容	日常生活で大切にしたい身体づくりの考え方について聴講していただいた後、介護予防のためのレクリエーションを体験していただきました。		
「相続と贈与 ～税制改正の概要～」			
日時	7月11日（土）	場所	大講義室
参加者	41名	受講料	無料
講師	キャリア育成学科 助教 田中 薫		
内容	相続税制度の基本的な仕組みから、税制改正後の最新の相続税・贈与税の内容、相続前にできる対策等、幅広い内容について聴講		



	していただきました。		
「PowerPointでフォトアルバム作成」			
日 時	8月1日(土)	場 所	PC教室 I
参加者	35名	受講料	無料
講 師	キャリア育成学科 講師 川喜田多佳子		
内 容	ファミリーフォトアルバムの作品づくりを通して、PowerPointの基本操作を学んでいただきました。		



### 教員免許状更新講習

平成19年6月の改正教育職員免許法の成立により、平成21年4月から教員免許更新制が導入されました。これは、その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すものです。修了確認期限前の2年間に、免許状更新講習を合計30時間以上受講し修了する必要があります。30時間のうち、「必修領域」を6時間以上、「選択必修領域」を6時間以上、「選択領域」を18時間以上受講し修了することとなります。本学では文部科学省の認定を受けて、免許状を所持している幼稚園教諭を対象とした免許状更新講習30時間のうち、「選択領域」18時間を実施しました。

なお、次年度からは必修領域、選択必修領域、選択領域の全ての領域30時間を実施する予定です。

「現代保育者の専門性」			
日 時	11月 3日(祝)	講 師	子ども学科 准教授 青木信子 講 師 寶來敬章
「子どもの表現と幼児教育」			
日 時	11月 8日(日)	講 師	子ども学科 教 授 福西朋子
「子どもの表現活動指導法」			
日 時	11月15日(日)	講 師	子ども学科 助 教 藤重育子・林韓燮
定 員	40名	受講料	3日間18時間で18,000円



### Mie保育士人材バンク「takada-jc」

県内の保育士養成校の卒業生を中心に保育士資格等を有していながら現在保育士として就業していない潜在保育士に対して、研修を提供しスキルアップを図り、子どもの視点に立った保育人材を育成し、再就職を支援する人材バンクです。また、保育士資格を有し、現在働いている方へ保育指針を踏まえたスキルアップの場を提供しています。今年度も教員免許状更新講習会等に併せ、登録された保育士等に次の研修会を実施しました。



講座① 現代保育者の専門性	
日 時	11月3日(祝) 9:00~16:00
講 師	子ども学科 准教授 青木信子、子ども学科 講 師 寶來敬章
講座② 子どもの表現と幼児教育	
日 時	11月8日(日) 9:00~16:00
講 師	子ども学科 教 授 福西朋子

講座③ 子どもの表現活動指導法	
日時	11月15日(日) 9:00～16:00
講師	子ども学科 助教 藤重育子、子ども学科 助教 林 韓燮
参加費	各講座とも無料
定員	各講座とも40名程度

### みえアカデミックセミナー2015 ～心豊かな人生へのアクセス～

和やかな雰囲気の中で、子どもの頃に親しんだ唱歌や童謡の詞の意味や歴史的変遷の説明を交えながら、子育てと歌との関わりや、またこうした歌が歌い継がれる意義などについて解説するとともに、参加された方も一緒に歌ったり、歌に合わせた手遊びを行ったりして童心に返って楽しいひとときを過ごしていただきました。

日時	8月9日(日) 13:30～16:10
会場	三重県総合文化会館1F レセプションルーム
担当	挨拶：子ども学科長 千草篤麿 司会：事務局
日程	講演①「子どもの歌の世界への誘い」 (子ども学科 教授 福西朋子) 講演②「子どもの歌、歌あそびの楽しみ ～みなさんで歌いましょう～」 (子ども学科 准教授 山本敦子)
参加者	55名



### 「高等教育コンソーシアムみえ」設立

県内高等教育機関相互並びに県内高等教育機関と地域との連携を促進することにより、県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、若者の県内定着による人口減少の抑制及び地域の活性化を実現することを目的に、県内にある13の高等教育機関と県が「高等教育コンソーシアムみえ」を立ち上げ、3月29日(火)に協定を締結いたしました。引き続いて行われた設立総会では、規約の制定や平成28年度の事業計画等が審議され、三重大学が事務局を務めるほか、地域貢献部会を設置することが承認されました。

なお、これに伴い、平成26年度に県内私立8高等教育機関で設立された「コンソーシアム三重」は、FD・SD活動を除き、発展的解消することとなりました。また、県が主催する「大学サロンみえ」についても、今後同様の処置となる予定です。

## 子ども学科

### 家庭教育支援コーディネーター養成講座(基礎コース)

地域での子育てや家庭教育を支援するコーディネーターを養成する講座で、津市と共催で開催しています。次年度からは「実践コース」も本学科が実施を担当することとなっています。

場所	南が丘会館研修室	
内容	6月11日(木) 「子どもの育ちと食」	(教授 鷺見裕子)
	6月18日(木) 「子どもの音遊び・手作り楽器」	(准教授 山本敦子)
	6月25日(木) 「子どもの病気とけが」	(講師 長倉里加)
	7月2日(木) 「子どものからだ育てと運動遊び」	(講師 柳瀬慶子)
	7月30日(木) 「子どもの発達と障害」	(教授 千草篤麿)

## キャリア育成学科 オフィスワークコース

### JA みえきたー清涼飲料水ペットボトル「は〜と麦茶」

JA みえきたから発売される清涼飲料水「は〜と麦茶」の商品開発に、キャリア育成学科長杉浦礼子教授がかかわり、記者発表ののち発売されました。茶離れしている若者を意識したパッケージデザインやキャッチコピーとなっています。また、今後計画されている商品改良に向け、学生たちはアイデアをラフ画にして JA みえきたに提案しました。

主な内容として、「恋みくじ」付きやアプリと連動するパッケージデザイン、リユースを視野に入れたボトルなどがありました。



学生が提案したラフ画の一つ

### 四日市商工会議所－四日市の新お土産開発プロジェクト

平成27年度、四日市商工会議所が「地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト」に採択された事業「四日市の新お土産開発プロジェクト」に取り組んでいます。四日市市へ立ち寄ったビジネスマンを中心とする人を買ってもらえ、日持ちがする四日市らしい土産物を開発することを目的としたプロジェクトで、プロジェクト委員として杉浦礼子教授が参画しています。



このプロジェクトで制作された試作品を本学の学生25名が試食し、外観や食味、土産物としてふさわしいかなどの切り口から評価するお手伝いをしました。

### ベストプラクティスコンテストへ参加

平成28年2月28日（日）三重県庁講堂で行われた、平成27年度「学生」×「地域」の取組事例発表会「ベストプラクティスコンテスト」にキャリア育成学科オフィスワークコースの学生が参加しました。ベストプラクティスコンテストに参加したのは、平成27年度が初めてです。鈴鹿法人会と協力して取り組んできた「租税教室」での活動を報告しました。



## キャリア育成学科 介護福祉コース

三重県介護福祉士養成施設協議会（会長：栗原廣海本学学長）の幹事校及び事務局として、他の専門学校と連携して介護福祉士のスキルアップと一般の人々への介護の普及に取り組みました。

### 介護の日フェア2015

三重県介護福祉士会、三重県社会福祉協議会と連携し、「11月11日介護の日フェア2015」を開催しました。具体的な活動としては、中日新聞三重県版朝刊による介護の日の広告掲載、街頭啓発活動の実施、幼稚園2園へ訪問活動を行いました。また、11月11日の午後には介護の日フェアを開催し、学生による介護の知識・技術セミナー、基調講演、本学の栗原廣海学長が講師を務めた特別講演を開催しました。



この事業を活用し、介護のリーフレットやハンドブックを配布しました。また、介護の日を周知するサンプリング用ティッシュを6000個配布できました。駅前の街頭啓発、教育機関への訪問、イベントの開催を総合的に展開し、11月11日は介護の日であることと介護のイメージアップを県民に広く周知することができました。

開催日	平成27年11月11日(水) 7:30~17:00
場所	津駅東口、幼稚園2園、三重県総合文化センター・小ホール
参加者	188名
目的	他の福祉関係機関等と連携し、11月11日の「介護の日」に合わせ、イベントを開催しました。リーフレットや介護の冊子等を作成、配布し、様々な企画を催すことで地域住民の介護に対する理解を深めます。

### 介護職員キャリアアップ支援事業

三重県介護福祉士会大田京子会長より認定介護福祉士に関する情報と介護福祉士のキャリアパスについて学びました。また、本学介護福祉研究センター研究員で理学療法士の宮川智行氏よりボディメカニクスを活用した移動介助について学びました。



開催日	平成28年3月23日(水) 13:30~16:00
場所	高田短期大学 介護実習室
参加者	30名
目的	養成施設の卒業生間のネットワーク構築や、専門性を高める素地をつくる。また、介護従事者のネットワークを広げる。さらに、職能団体から認定介護福祉士の最新情報を提供し、キャリアアップの支援を図る。



## 地域連携施設

### 仏教教育研究センター

#### 研究会の開催

研究テーマ：「真慧上人著『顕正流義鈔』の研究」

高田派中興の祖である真慧上人のご遠忌を記念して、上人が著された『顕正流義鈔』の研究書を発刊することを目的に毎月1回研究会を開催しています。これまでに原文と現代語訳との対照を行い、語句説明を頭註、補註形態で行ってきました。現在は、補註の完成に向けて作業を進めています。

#### 仏教教育研究センター公開講座 (高田本山教学部 共催)

地域の方々に仏教に触れる機会をご提供することを目的に、高田本山教学部との共催にて、真宗高田派本山にて開講しました。

	第1回	第2回
日時	6月30日(火) 13:30~15:30	11月10日(火) 13:30~15:30
題目	「真慧上人のご生涯と 室町・戦国時代の教化」	「室町・戦国時代の 津の町と高田派寺院」
講師	藤田正知研究員 (高田中・高等学校教諭)	太田光俊氏 (三重県総合博物館学芸員)
受講者	33名	69名
受講料	無料	



## 仏教基礎講座（高田本山寄附講座）

高田本山からの寄附を基に実施する講座で、仏教や真宗に関する基礎的な内容に加え、真宗高田派の歴史や法宝物に関する知識を学んでいただきました。

日 時	8月17日(月)～8月21日(金) 9:00～17:50
対 象	寺族及び一般者
受講料	無料（但し、テキスト代は実費負担）
教 科 講 師	「仏教学」 栗原廣海研究員（本学学長） 「仏教史」 金信昌樹研究センター長（本学特任教授） 「真宗学」 松山智道主任研究員（高田中・高等学校常勤講師） 「真宗史」 清水谷正尊研究員（本学・龍谷大学非常勤講師） 「高田の歴史と法宝物」 新 光晴研究員（真宗高田派本山専修寺宝物館主幹）
受講者	39名（教師検定講習受検者20名、一般19名）



## 仏教専門講座（高田本山寄附講座）

仏教基礎講座と同じく高田本山からの寄附を基に実施するもので、仏教や真宗に関するより専門的な知識を年間10回の講座（11回目として試験日あり）で学んでいただきます。講座科目は隔年で内容が変わり、全10科目（隔年で5科目）を開講します。この講座は、文部科学省の履修証明制度に則った「履修証明プログラム」として開講し、全10科目の講座を修了された方には学校教育法第105条に基づいた履修証明書を交付します。

日 時	4月24日(金) 5月29日(金) 6月26日(金) 7月31日(金) 9月25日(金) 10月30日(金) 11月27日(金) 12月18日(金) 1月29日(金) 2月26日(金) 3月4日(金) 9時00分～17時50分（50分の昼休憩あり）		
対 象	寺族および一般（真宗高田派の教学を学びたい方）		
受講料	無料（但し、テキスト代は実費負担）	受講者	43名
教 科 講 師	「仏教学概説」 新 光晴研究員（真宗高田派本山専修寺宝物館主幹） 「仏教学講読Ⅰ」 安藤章仁研究員（高田中・高等学校非常勤講師） 「真宗学講読Ⅰ」 松山智道主任研究員（高田中・高等学校非常勤講師） 「真宗学講読Ⅲ」 佐波 真研究員（明通寺住職） 「高田の宗風」 藤田正知研究員（高田中・高等学校教諭）		

## 運営委員会の開催

第1回	4月16日(木) 16:30～17:20	基礎講座について、公開講座について
第2回	6月18日(木) 16:30～16:45	基礎講座について
第3回	7月23日(木) 16:30～16:45	基礎講座について
第4回	10月1日(木) 16:30～17:30	基礎講座の反省について 第2回公開講座の広報について
第5回	11月26日(木) 16:30～17:15	平成28年度センター年間行事予定について 公開講座講師について
第6回	3月15日(火) 16:30～17:15	平成27年度の講座について 平成28年度の講座について

## 育児文化研究センター

### 関連会議

センター会議		
	前 期	後 期
開催日	5月20日(水) 16:30~18:30	12月10日(木) 16:30~18:30
参加者	23名	18名
内 容	平成26年度事業報告と 平成27年度事業計画について 津市における子ども・子育て支援施策について (話題提供: 鎌田光昭研究員) 研究員紹介 グループ研究報告	平成27年度事業報告 平成28年度に向けて 「保育者の専門性について —保養協専門委員会 H24・25年度調査より—」 (話題提供: 鷲見裕子研究員)

拡大運営委員会			
	第1回	第2回	第3回
開催日	4月25日(金) 16:30~18:00	9月30日(水) 16:30~18:00	3月2日(水) 16:30~18:00
内 容	平成27年度事業計画について	平成27年度中間報告について	平成27年度事業報告について

ひろば運営会議				
開催日	4月27日(月)	5月25日(月)	6月29日(月)	7月23日(木)
	8月24日(月)	9月28日(月)	10月22日(木)	11月19日(木)
	12月21日(月)	1月25日(月)	2月25日(木)	
内 容	月1回「おやこひろば たかたん」のふりかえり、計画確認、課題検討を専任スタッフと運営委員で行っています。			

学内運営会議	
開催日	平成27年4月から平成28年3月までに計11回

### 地域開放事業「おやこひろば たかたん」

子育て家庭の支援と子育て支援に関する研究フィールドの「おやこひろば たかたん」は5年目を迎え、津市を中心に子育て親子の皆さんにご利用いただいています。今年度は、穏やかな雰囲気の中で、親子がふれあいを深め、遊びや関わりの中で親も子ども「気づき」のもてる広場をめざしたスタッフの関わり、環境設定に努めています。また、保育ボランティア学生の広場参加が、学生のみならず参加している親子さんにも有意義な場となるような支援を心がけています。その他、子育て講座、支援者研修会を行いました。



開催日	月曜日・・・0、1歳児 46回 木曜日・・・2歳児以上 47回 計93回 時 間 10:00~12:00
場 所	育児文化室(1号館2階) <b>参加対象</b> 未就園児とその保護者
利用者	207組の親子 子どもと保護者を併せて延べ3, 241名が利用

※開催日の○は子育て講座日

※「ボランティア支援者」とは一般ボランティア、「学生」とは本学の学生ボランティアのこと(専属職員4名は含まない)

月	月曜日	木曜日	テーマ	利用者数	ボランティア支援者
4	6. 13. 20. 27	9. 16. 30. ㉓	親子ひろばに慣れ、楽しんで遊ぶ 友達を意識する	子ども:140名 大人:129名 内新規:61組	15名
5	11. 25. ㉞	7. 14. 21. 28	季節を感じて散歩など外遊びを楽しむ	子ども:130名 大人:117名 内新規:17組	12名
6	1. 8. 15. 22. 29	4. 11. 25. ㉞	梅雨の季節の遊びを見つけ、楽しむ	子ども:182名 大人:167名 内新規:23組	16名+学生8名
7	6. 20. 27. ㉓	2. 9. 16. 23. 30	夏に向けて、身体を鍛える	子ども:134名 大人:123名 内新規:9組	13名+学生4名
8	3. 10. 17. 24. 31	6. 27. ㉞	夏の遊びを楽しむ	子ども:106名 大人:100名 内新規:11組	11名+学生47名
9	7. 28. ㉞	3. 10. 17. 24	友達意識がめばえ、学生とも一緒に遊ぶ	子ども:132名 大人:119名 内新規:11組	14名+学生32名
10	5. 12. 19	1. 8. 15. 22. ㉓	秋の風を感じ、戸外遊びを楽しむ	子ども:162名 大人:150名 内新規:23組	12名+学生13名
11	2. 9. 24. 30. ㉞	5. 12. 19. 26	秋の自然に触れて遊ぶ	子ども:156名 大人:136名 内新規:10組	15名+学生10名
12	7. 14. 21	3. 10. 24. ㉞	寒さに負けず、身体を動かして遊ぶ	子ども:119名 大人:101名 内新規:14組	12名+学生20名
1	4. 12. 25. ㉞	7. 14. 21. 28	お正月を通して日本の伝統行事、遊びを知る	子ども:150名 大人:125名 内新規:7組	10名+学生19名
2	1. 8. 15. 22. 29	4. 25. ㉞	冬の自然を感じる(寒風・雪・霜) 室内遊びを楽しむ	子ども:165名 大人:142名 内新規:20組	14名+学生9名
3	7. 14	3. 10. 17. 24	一年間の成長を感じる	子ども:127名 大人:107名 内新規:11組	9名+学生2名
4月～3月 延べ利用者合計				子ども:1725名 大人:1516名 親子:207組 総数:3241名	164名+ 学生317名



## 子育て講座

ひろば開催日(月1回)にセンター研究員を講師に子育て講座を開催しています。

講座日	テーマ	講師	参加者数
4月23日(木)	親子で遊ぼう!	青木信子	18組
5月18日(月)	手作り楽器を作ろう～ふうせん太鼓～	山本敦子	18組
6月18日(木)	ふれあい遊びを楽しもう!	小菅千恵子	20組
7月13日(月)	夏にかかりやすい病気と予防	長倉里加	19組
8月20日(木)	とんで、はねて親子で遊ぼう!～楽しい表現遊び～	太田和子	10組
9月14日(月)	子育てママのプチ食育講座	鷺見裕子	17組
10月29日(木)	絵本とリラックス	藤重 育子	16組
11月16日(月)	竹とんぼを作って飛ばそう!	林 韓燮	15組
12月17日(木)	運動遊びで育むからだの力	柳瀬 慶子	18組
1月18日(月)	子どもの能力・脳力を伸ばす食・生活リズム・オムツ外し	駒田 聡子	21組
2月18日(木)	心と身体を育む歌とリズム遊び	ひろばスタッフ	25組

## アンケートの実施

9月以降（全6回）の「子育て講座」後に、参加者に対してアンケート調査を行ったところ、107人の保護者より回答を得、（回収率95.5%）多くの参加者が講座に対して「満足である」と回答していました。

また、アンケートの記述から特徴的であった点としては、母子分離での講座では、保護者の学習意欲や知識の増加を感じとれました。運動遊びや体験・触れ合いなどが主な講座では、親子で楽しめる点や遊びの種類が増えたことに対する喜びの声を聞くことができました。親子で観覧する講座では、親が子どもの嬉しそうな様子を見られたことが親の満足度に繋がっているようにうかがえました。この結果から、通常の親子広場としての場の提供だけでなく、保護者がまたは親子で学習する場の提供は高等教育機関における広場の役割であると感じとることができました。



その他、保護者からは引き続き予約制での希望が多く挙がりました。そして今後の講座については、特に「子育ての知恵」や「遊び」「制作」を保護者が希望していることがうかがえました。

## ひろば関係研修会

第1回ひろば支援者研修会「乳幼児の救急蘇生について」	
日時	8月17日（月）13:00～14:30
場所	1号館育児文化室
参加者	講習講師・本学教職員・ひろばスタッフ・地域ボランティア 計18名
内容	津北消防署から乳児の救急蘇生法について説明を受け、その後、救急蘇生法や異物除去の実施体験を行いました。
第2回ひろば支援者研修会「おやこひろば たかたんの取り組みについて」	
日時	1月12日（火）12:30～14:00
場所	1号館第4会議室
内容	本学教職員・運営スタッフ・地域ボランティア計15名

### 「おやこひろば たかたん」ホームページ

「ひろば開催日」「活動案内」「活動紹介」等、現在の活動や今後のご案内をしています。「活動紹介」はブログ形式で写真とともに、毎ひろば開催日にアップをしています。また、プリントアウトして育児文化室前にも掲示しています。

## 地域子育て支援事業「子育て相談」

地域への子育て支援の事業として、育児に関する心配や不安を相談できる個別対応の子育て相談を予約制で行いました。昨年度の振り返りにより、今年度はひろば参加者以外にも広報することに努めました。その結果、情報誌「きらきら」や他のひろばでの掲示チラシをみての申込者がありました。相談利用は4月～3月までに発達相談14件、食3件、子育て3件でした。また、個別相談には至りませんが、担当者がひろばに出向きひろば内で相談を受けることもありました。

相談内容	担当者	平成27年度基本相談日
発達相談	千草篤磨	4～8月 第3水曜日 ①13時 ②14時
		9～3月 第2木曜日 ①10時 ②11時
子どもの食	鷲見裕子	第3木曜日 ①13時 ②14時

子どもの健康	長倉里加	第2月曜日 ①12時半 ②13時半
子育て・教育	青木信子	第4金曜日 ①10時 ②11時

### 地域啓発事業「育児文化研究センター主催講演会」

今年度は1回の講演を開催しました。講師及びテーマを運営委員会で協議・調整を行い、右記の講師による講演会を実施しました。

幅広い参加者でしたが、どの参加者にとっても心に響くわかりやすい内容であったために、「また聴きたい」という声が多数寄せられました。参加学生にも反響が大きく、全学生への参加を促すべきでした。参加申込書の記載の仕方や参加希望者への返信に関する課題が挙がったので、次年度検討していく余地があります。



大豆生田啓友先生（玉川大学教育学部教授）講演会	
テーマ	「いまどきの保育・子育てで大切なこと」
日時	12月10日（土）13：30～15：00
場所	1号館講堂
参加者	保育関係者、子育て中の親、学生、教職員 計215人

### 研究会

センター研究員の活動の場として定例研究会とグループ研究会を開催しています。

#### 定例研究会

各会とも2題の研究報告がなされ、質疑応答、意見交換が行われました。報告の概要は「高田短期大学育児文化研究第11号」に掲載しました。

第41回	日時	7月14日（火）16：30～18：30
	研究報告	池村 進 研究員 「子どものための保育教材開発」 藤重育子 研究員 「保育実習（施設）における学生の学びと指導のあり方」 グループ研究会について
第42回	日時	11月4日（水）16：30～18：30
	研究報告	小菅千恵子 研究員 「保育所における栽培活動に関する一考察」 駒田聡子 研究員 「食物アレルギー児援助のポイント」
第43回	日時	2月18日（水）16：30～18：30
	研究報告	福西 朋子 研究員 「保育学生の保護者支援に関する学びの一考察」 上村 晶 研究員 「保育現場が求める保育実践力の形成段階」



#### グループ研究会

各グループ研究会は、主題に沿って現在の子育て・保育の現状を捉えながら、幅広い専門領域の研究員からの情報提供も盛り込み、どの研究会も活発な研究活動が行われました。研究概要は「高田短期大学育児文化研究第11号」に掲載しました。

研究①	日時	7月22日(水) 9月17日(木) 11月24日(火) 1月28日(木) 3月9日(水)	参加者	10名
	内容	「子育て支援の現状と課題」		
研究②	日時	6月22日(月) 8月24日(月) 11月12日(木) 1月25日(月)	参加者	11名
	内容	「子育て支援のひろばについて」		
研究③	日時	6月23日(火) 7月28日(火) 10月14日(水) 12月2日(水) 2月3日(水) 3月14日(月)	参加者	7名
	内容	「子どもの基本的な生活習慣の発達基準と育児」		

## 学生支援事業「子育て応援隊活動」

今年度はボランティア支援センターと連携した地域保育関連の活動とみえこどもの城との連携協定にかかわる活動に取り組みました。

### 地域保育関連の学生ボランティア活動支援

ボランティア支援センターとは平成24年度から、連携を取りながら活動を行ってきました。表に示した園行事、子育て支援、託児、イベント等の活動に22件、のべ215人の学生が参加しました。保育・子育てに関わる地域でのボランティア活動は、学生にとって貴重な体験と学びの機会となりました。今年度はこれまで育児文化研究センターとして継続して実施してきた事前・事後指導を個々の学生の確かな学びとなるよう改善を試み支援しました。この取り組みの概要は「高田短期大学育児文化研究第11号」に実践報告として掲載してあります。

また、今年度は三重県教育委員会主催、社会教育実践交流広場「地域に関わる学生」に「学外ボランティア『子育て応援隊』活動報告」を出展しました。参加学生による子育て応援隊活動の報告とブースでの学生と地域関係者との交流の機会を持つことができました。



平成27年度 育児文化研究センター学外ボランティア「子育て応援隊」						
No	実施月日	行事	内容	人数	依頼団体	場所
1	7月4・5日	「キッズおしごと広場」	職業体験イベント運営スタッフ	39	公益財団法人三重こどもわかもの育成財団(三重県立みえこどもの城)	三重県立みえこどもの城
2	7月5日	ファミリー教室	父と子のふれあい教室運営補助	19	つながりひろば交流会	高田短期大学
3	7月11日	高田保育園夏まつり	夏まつり運営手伝い	14	高田保育園	高田保育園園庭及び園舎
4	7月12日	第60回三重県・第53回津市母親大会	乳幼児の保育	5	第60回三重県・第53回津市母親大会実行委員会	センターパレスホール・津中央公民館・市民活動センター
5	7月18日	ほうりん保育園夏祭り	夏祭りボランティア	5	ほうりん保育園	ほうりん児童館グラウンド
6	7月18日	しんまち夏まつり	バルーンアート	6	新町地区自治会連合会	新町小学校
7	7月21日	子育て支援活動「ぼほぶクラブ」	子育て支援ボランティア	7	高岡ほうりん保育園	高岡ほうりん保育園
8	7月21日	高田幼稚園夏まつり	模擬店手伝い・保育補助	15	高田幼稚園	高田幼稚園園庭
9	7月25日	夏祭り	ゲームコーナー設置準備等	4	社会福祉法人志生会ハートピア保育園	ハートピア保育園 園庭
10	7月25日	納涼大会	納涼大会企画、運営、手伝い	7	まつさか幼稚園	まつさか幼稚園園庭
11	8月1日	さくら保育園 夏まつり	夏まつり手伝い	15	(社)慈徳会 さくら保育園	さくら保育園園庭
12	8月2日	2015 Ene-1GP SUZUKA ブロックで車を作ろう!	子どもたちとブロックを使って制作をする。	9	(株)モビリティランド 鈴鹿サーキット	鈴鹿サーキット レーシングコース横ホール2階
13	8月6日	ほうりん保育園子育て支援活動「パホパフクラブ」給食試食つき	おもちゃや絵本、わらべうたで子どもとあそぶ子育て支援活動	4	ほうりん保育園	鈴鹿市北長太町4119
14	8月8日	若葉保育園夏まつり会	夜店番や道路の安全確認	6	若葉保育園	永福寺 松阪市松ヶ島町946
15	8月20日	ほうりん保育園子育て支援活動「パホパフクラブ」給食試食つき	おもちゃや絵本、わらべうたで子どもとあそぶ子育て支援活動	5	ほうりん保育園	鈴鹿市北長太町4119
16	8月22日	平成27年度社会教育実践交流広場「地域に関わる学生」	実践概要発表と社会教育実践交流広場でのブース発表	4	三重県教育委員会社会教育・文化財保護課	三重県総合文化センター
17	8月27日	ほうりん保育園子育て支援活動「パホパフクラブ」給食試食つき	おもちゃや絵本、わらべうたで子どもとあそぶ子育て支援活動	5	ほうりん保育園	鈴鹿市北長太町4119
18	8月28日	お兄ちゃんお姉ちゃんと遊ぼう	保育・子育て支援	6	子育てサロン よりあい	津市つつじヶ丘会館
19	8月29日	子育てママのほっとひろば	乳幼児の保育	8	育児文化研究センター	高田短期大学
20	9月27日	交通安全フェスタ	バルーンアート	7	津ドライビングスクール	津ドライビングスクール
21	10月10日	白子幼稚園 運動会	①園児の救護 ②演技準備補助	10	鈴鹿市立白子幼稚園	鈴鹿市立白子幼稚園及白子小学校体育館
22	12月4・6日	高田幼稚園生活発表会	園児演技準備補助	15	高田幼稚園	高田短期大学

## みえこどもの城連携協定による事業支援

本学と三重こどもわかもの育成財団との連携協定に関わる学生によるイベント開催の企画立案、実施支援を行いました。

連携協定式記念イベント「みんな集まれ！たかたん あそびひろば」	
日 時	12月23日（水） 11：00～16：00
場 所	みえこどもの城
内 容	本学子ども学科学生（子育て応援隊）による子ども向けイベント 「バルーンコーナー」「劇」「親子で楽しむ歌あそび・ダンス・パラバルーン」 「パネルシアター、大型紙芝居、ペープサート」 4ゼミによる企画・運営
自主企画 「つくってあそんじゃおう 手作り楽器」	
日 時	1月17日（日） 13：00～15：00
場 所	みえこどもの城
内 容	山本ゼミ企画・運営による手づくり楽器の制作と楽器遊び



## 地域連携事業

平成27年4月から平成28年3月までに育児文化研究センター運営委員で以下の地域連携の会議や事業に参画しました。

### 津市つながりひろば運営委員会

第1回	日 時	6月11日（木） 18：00～21：30
	内 容	運営委員会のあり方と今年度事業予定について
第2回	日 時	9月3日（木） 18：00～21：00
	内 容	実施事業の振返りと事業企画について
第3回	日 時	12月3日（木） 18：00～21：00
	内 容	実施事業の振返りと企画、次年度取り組みについて
第4回	日 時	3月10日（木） 18：00～21：00
	内 容	今年度の振返りと次年度の取り組みと事業計画について

### みえ次世代育成応援ネットワーク

第1回運営委員会	
日 時	4月21日（火） 13：00～15：15
内 容	平成27年度の取り組み方針、会員総会について
みえ次世代育成応援ネットワーク会員総会	
日 時	5月30日（土） 13：00～16：30
内 容	記念講演、総会、会員交流会 子育て家庭交流フェア（同日開催） 10：00～15：30みえこどもの城

第2回運営委員会			
日 時	7月24日(金) 15:00~17:00		
内 容	会員総会振返り、ネットワークのビジョンについて		
第3回運営委員会			
日 時	10月22日(木) 16:00~17:30		
内 容	今年度後半の事業確認と来年度10周年記念行事について		
第10回子育て応援!わくわくフェスタ『みんなでいこらい、東紀州こどもの未来は、アババイゼ!』			
日 時	11月14日(土)・15日(日) 10:00~16:00		
場 所	東長島スポーツ公園	参加者	6,500名
内 容	「子育て応援隊活動」と「おやこひろば たかたん」等の子育て支援事業の取り組み紹介の展示ブースに参画		
第4回運営委員会			
日 時	3月14日(月) 15:00~17:00		
内 容	27年度事業報告と次年度事業と予算について		

### みえこどもの城連携協定による事業

前掲の12月23日(水)の連携協定記念や1月17日(日)の自主企画の学生によるイベント開催の窓口として日程調整やこどもの城担当や参加ゼミ担当との打合せ、現地見、学生送迎や荷物搬送の手配等の支援を行いました。

### 津北ロータリークラブ財団事業

津北ロータリークラブの平成28年度ロータリー財団地区補助金活用事業の協力団体として今年度はプロジェクトの内容検討と立案を行いました。

採択された場合、次年度はプロジェクトの企画・運営、実施に関わっていきます。

### 津市委託事業

平成27年4月から平成28年3月までに津市から「子育て支援事業に係る広報・地域活動支援事業」と「子育てママのホットひろば事業」の委託を受けて育児文化研究センターが下記事業の事務局を請負とともに、育児文化研究センターとして参画も行いました。

#### 津市ひろば関係者交流会事業(つながりひろば)

第1回	日 時	5月28日(木) 18:00~20:30	
	場 所	津市げいのうわんぱーく	参加者 49名
	内 容	話題提供 「子育てしやすい環境づくり ~津市新施設げいのうわんぱーくの紹介」 「新施設での取り組み~多年齢の子どもの交流」 ワークショップ 「多年齢の子どもの交流の展望と課題」	
第2回	日 時	8月27日(木) 18:00~20:00	
	場 所	あのう子育て支援センター	参加者 41名
	内 容	話題提供 「地域と連携した子育て支援	



		～世代を超えてつながろう～ ワークショップ 「それぞれの地域における課題と支援者さんとの連携のとり方」	
第3回	日時	11月5日(木) 18:30～20:30	
	場所	桜橋子育て支援センター	参加者 43名
	内容	話題提供 「津市子ども子育て支援新制度における子育て支援について」 「桜橋支援センターの事業内容と特色」	
第4回	日時	2月25日(木) 18:30～20:30	
	場所	津市児童発達支援センター	参加者 53名
	内容	話題提供 「児童発達支援センターの機能と役割」 ワークショップ 「気になる親子に寄り添うために」	



### 支援者支援事業：親子のかかわり支援（親支援の援助技術）

第1回	日時	7月23日(木) 18:30～20:30	
	場所	高田短期大学	参加者 30名
	テーマ	「特定妊婦への関わりと虐待の予防をするために」	
	講師	柳瀬幸子（ヤナセクリニック）	
第2回	日時	1月21日(木) 18:30～20:30	
	場所	高田短期大学	
	テーマ	「気になる親子に寄り添うために」	
	講師	牧野勢津子（臨床心理士） 嵐田まり子（こども支援課発達支援担当）	



### 津市親支援事業（子どもとの愛着形成、お母さんのリラクゼーション）

赤ちゃんパパ&ママ ファミリー教室			
第1回	日時	7月5日(日) 10:00～12:00	
第2回	場所	高田短期大学	参加家族 7組25名
第3回	日時	11月1日(日) 10:00～12:00	
第4回	場所	久居総合福祉会館	参加家族 17組53名
	内容	父親教室「遊ぼうお父さん！親子で育もう体の力」講師：柳瀬慶子研究員 母親教室「ゆったり語ろう、つながろう！」講師：青木信子研究員	



## 研究事業

調査研究の研究成果を以下や津市ひろば関係者交流会で報告するとともに、「高田短期大学育児文化研究第11号」にまとめました。

第62回日本小児保健協会学術集会（平成27年6月20日 長崎新聞文化ホール）
「子育て広場を利用する乳幼児の食と睡眠 —保護者と子育て支援者の「子どもの基本的生活習慣調査」より—」
育児文化研究 第11号
「子育て支援のための基本的生活習慣に関する研究（3） —子育て広場を利用する乳幼児の食と睡眠—」
子育て支援の広報物（リーフレット）作成
津市発行の「子育て支援」の視点を支援者に浸透させるための広報物（リーフレット）の作成にあたり掲載内容について研究を行いました。それをもとに画・編集しリーフレット『子どもの育つ力を伸ばそう！』（支援者用）を作成しました。



## ホッとひろば事業 子育てママの「ホッとひろば」

乳幼児を子育て中の親を対象として、ほんのひととき子どもから離れてホッとできる時間と、子育て中の親同士が交流できる場を提供する「子育てママのホッとひろば」を開催しました。

第1回	8月26日（水） 10:00～12:00	参加者	8名
第2回	11月21日（土） 10:00～12:00	参加者	6名
第3回	2月24日（水） 10:00～12:00	参加者	7名
場所	高田短期大学	講師	キャリア育成学科 特任准教授 橋本景子



## 広報物及び研究成果の発行

### センターたより「いくぶん」第20号

「おやこひろば たかたん」をはじめ育児文化研究センターの事業報告や新入会研究員の紹介を掲載し10月23日発行しました。

### 育児文化研究センター紀要「高田短期大学育児文化研究」第11号（平成28年3月発行）

研究論文7本、調査研究1本、実践報告4本と定例研究会での研究報告要旨と、3つのグループ研究会の活動報告等を掲載し3月15日発行しました。

## その他

### 育児文化研究センターリーフレットの作成

平成28年度配布のためのセンターリーフレットの改訂版を作成しました。

### 子育て情報発信

子情報誌きらきら（隔月発刊）の育文センター担当頁『子育てライフ応援隊！一緒に子育てをはじめましょ』へ子育て情報を掲載しました。

27年5・6月号	「梅雨から初夏に向けての過ごし方」「子どもの発達について」
27年7・8月号	「暑い夏を元気に楽しく過ごすために」「幼児の食について」
27年9・10月号	「心と体で『秋』をめいっぱい感じよう」「子どもの運動能力」
27年11・12月号	「寒い冬を楽しく過ごしましょう」「病気から体を守る」
28年1・2月号	「子どもの成長とかたづけについて」「食べ物の好き嫌い」
28年3・4月号	「入園・進学・進級にむけて」「睡眠について」

## キャリア研究センター

### 研究活動

#### 「キャリア研究センター紀要・年報」発刊

キャリア研究センターは、人材育成、雇用・労働問題、地域社会等に関する創造的な研究・調査活動を促進し、その成果を広く学内外に問うために年に1回「キャリア研究センター紀要・年報」を発刊することとしており、28年3月に第2号を発刊しました。本号では、鈴木英敬三重県知事の巻頭言、センター長挨拶、2本の総論、7本の研究論文、1本の調査報告の紀要と、当センターの事業報告を取りまとめた年報から構成されています。



#### 勉強会の開催

本年度よりセンター会議と同時に研究会を開催しました。

#### 第1回高田短期大学キャリア研究センター研究会

日時	1月25日(月) 16:30~18:00	場所	第4会議室(1号館4階)
講師	三重大学 山守一徳教授	テーマ	「Moodle について」

### 地域連携事業

#### 茶来まつさか(株)、(株)ディーグリーン、(株)百五銀行との連携事業—茶製品開発

本年度、三重県松阪市の茶製造業の茶来まつさか株式会社、紀北町の株式会社ディーグリーン、株式会社百五銀行、学生が連携し、三重県産の茶葉に関する市場調査や、茶葉を活用した製品開発に取り組みました。

7月16日(木)、高田短期大学の図書館グループワークエリアで、学生は三重県茶産業の現状や、インバウンド市場が注目されている理由について学んだのち、緑茶・抹茶・粉茶・粉末茶の違いについて茶来まつさか株式会社の中村社長にお話をいただきました。

9月2日(水)、4日(金)の両日、伊勢市のおかげ横丁を運営する有限会社伊勢福の協力を得て、観光客向けに三重県産の茶と土産物に関するアンケート調査を実施しました。



#### 津市中央公民館との共催パソコン教室

高齢者の情報格差を解消するために、高齢者がパソコンやインターネットなどの情報技術に触れたり学習したりする機会を作ることを目的とした事業で学生とともに実施しました。

津市中央公民館との共催事業は、地域力情報セミナー「シニアパソコン教室」と「パソコン指導ボランティア養成講座」の講座運営を、任意団体「情報ボランティアみえ」が主管し、キャリア研究センター研究員や本学学生が講座の運営に参画しました。



	日時	受講者	スタッフ ※じよぼみ…情報ボランティアみえ
第1回	6月28日(日)	30名	31名(学生20名、じよぼみ10名、研究員1名)
第2回	12月20日(日)	29名	35名(学生7名、じよぼみ8名、パソコン指導ボランティア養成講座受講生19名、研究員1名)
第3回	3月6日(日)	28名	31名(学生7名、じよぼみ7名、パソコン指導ボランティア養成講座受講生16名、研究員1名)

## 「寺・まち・女子」一身田寺内町活性化プロジェクト

一身田寺内町商工振興会と専修寺、津市役所らと本学オフィスワークコース1年生が、新製品開発および地域ブランドの構築を目指す「寺・まち・女子」一身田寺内町活性化プロジェクトに取り組みました。

本年度は、まず、地域ブランド構築を目指して、新たな一身田統一ブランド『一身田印』の地域ブランドを確立しました。

『一身田印』のロゴは、津市の協力を得ながら公募でデザインを募集し全国から98のデザインを応募いただき、書類審査を経て、11月に一身田で行われた寺内町祭りの特設ブースにて投票形式で選定し、一身田印認定協議会の審査を経て決定しました。本学のオフィスワークコースの学生も多数デザインを応募し、そのうち1名のデザインが入賞しました。

また、商工振興会の菓子製造・販売を中心とする6店舗の店主と学生がコラボレーションして、「蓮」をテーマとした新商品開発にも取り組みました。試作品を寺内町祭りで配布し、テスト・マーケティングを実施し、商品改良を重ねて、平成28年1月に開催された「お七夜」で完成した商品を披露・販売しました。尚、一連の活動は新聞のほか全国商店街支援センター発行「E G A O」にも取り上げられました。



## 百五銀行・百五経済研究所との連携事業ー「女性社員の採用～定着～戦力化を考える」

9月2日(水)、高田会館大ホールにおいて、連携勉強会「女性社員の採用～定着～戦力化を考える」を実施しました。

第1部	講演「女性社員の接し方、伸ばし方」 株式会社キャリア 代表取締役 倉橋 和世 氏
第2部	課題整理・問題提起・女子学生とのグループディスカッション 「女性社員の活躍推進と現代女子学生の就職活動の実態」 高田短期大学 キャリア研究センター長 杉浦 礼子



第2部のグループディスカッションでは、参加企業24社28名とキャリア研究センターの研究員7名、高田短期大学キャリア育成学科オフィスワークコースの学生9名が6グループに分かれてグループディスカッションを行いました。

グループディスカッションでは参加企業の経営者や採用担当者と学生が活発に意見を交わす様子が見られました。また、この勉強会の様子は、伊勢新聞(27年9月3日2面)に掲載されたほか、三重テレビ放送のニュースウィズでも取り上げられました。

## 「租税教室」への参画

鈴鹿法人会青年部、税務署の皆様が取り組んでいる「租税教室プロジェクト」の「租税教室」にオフィスワークコースの学生2名が参画し地域貢献活動を行いました。

このプロジェクトでは、鈴鹿法人会青年部の方や税務署の方に事前に消費税を中心とする税金に対する基本的な知識や必要性、使われ方などを教えていただき、税務署の方に講師をして登壇することを認めていただいた学生が小学校に出向き講義を行う活動です。

平成28年2月9日(火)、10日(水)の2日間に渡り鈴鹿市立天名小学校と鈴鹿市立庄野小学校で学生が講師を務めました。



## リカレント教育—電話対応講座

昨年度「ホームカミングデー」に参加した卒業生のニーズに応え、7月20日（月・祝）にリカレント教育の一環として、本学の卒業生を対象に電話対応講座を実施いたしました。（株）Will Staffの代表取締役で、本学でビジネスマナーの授業を担当している長谷川聡子先生が講師を務めました。



高田短期大学 キヤリア研究センター主催  
高田短期大学 卒業生限定！  
つばしだい！ 電話対応実習を学ぼう！  
**電話対応講座 & 交流会**  
電話応対は社会的技能です。お客様との関係は大切で、その関係によって信頼感が生まれます。この講座では、お客様と信頼関係を築くためのポイントをお伝えします。電話応対が苦手な方、苦手な方にも是非参加してください。

日時	平成27年 7月20日(祝・月)	参加 無料
場所	午後1時～4時 高田短期大学 (3号館) PC1教室 (3号館1階101号室) 高田短期大学	定員 30名
講師	高田短期大学 キヤリア研究センター 講師 株式会社 Will Staff 代表取締役 長谷川 聡子	申込先 高田短期大学 キャリア研究センター

**講座内容**  
皆さんの職業に必要となる電話応対のスキルを学びます。  
【お客様の悩みを共有しよう】 一般企業と、特別にサービスを提供する企業とを比較。  
【業務を習得しよう】 一人ひとりが自分の役割を明確にし、安心して業務を行います。  
【実践練習しよう】 実際の業務に準じた練習を行います。是非参加してください！

卒業生が実際に仕事で困ったり悩んだりしている電話対応についての活発な質疑応答が交わされました。また、講座終了後にはお互いの近況について交流会を行いました。

## キャリア支援セミナー「高短 One day セミナー」

平成28年2月6日(土)、「キャリアを考える高校2年生のための高短 One day セミナー」を開催し、6つの高校から26名の高校生に参加いただきました。体験学習を主体とした講座の受講や在学生との交流を通じ、進路選択や自らのキャリアについて考えるきっかけづくりとなることを目的とした事業です。

＜プログラム＞

- ・講座1「ゲームで学ぶコミュニケーション」  
講師 野呂健一（主任研究員）
- ・お菓子パーティー
- ・講座2「タワービルディング～目標達成とは」  
講師 野崎千恵（研究員）



## 就業支援セミナー

### 「どこの職場でも活かせるパソコンスキル Excel で請求書作成」セミナー

9月4日（金）、高田短期大学3号館PC1教室にて、「どこの職場でも活かせるパソコンスキル Excel で請求書作成」セミナーを開催し、21名の方に参加いただきました。講師は川喜田多佳子研究員が、ティーチング・アシスタントはオフィスワークコースの学生3名が務めました。



高田短期大学 キヤリア研究センター主催  
**Excel で請求書作成**  
どこの職場でも活かせるパソコンスキル。Excelで請求書作成のスキルを学びます。この講座では、Excelの基礎から応用まで、実践的なスキルを学びます。是非参加してください。

日時	平成27年 9月4日(金)	参加 無料
場所	午後1時～4時 高田短期大学 (3号館) PC1教室 (3号館1階101号室) 高田短期大学	定員 30名
講師	高田短期大学 キヤリア研究センター 講師 川喜田 多佳子	申込先 高田短期大学 キャリア研究センター

**講座内容**  
請求書作成のスキルを学びます。  
【請求書の作成】 請求書の作成方法を学びます。  
【実践練習】 実際の業務に準じた練習を行います。是非参加してください！

セミナーでは、業務効率アップにつながる VLOOKUP や IF 関数の活用方法などを学び、実際に関数を使って請求書を作成する一連の流れを体験していただきました。

### 「業務効率が驚くほど上がる 知って得する Word・Excel の裏技 Part1」セミナー

11月10日（火）、高田短期大学3号館PC1教室にて、「業務効率が驚くほど上がる 知って得する Word・Excel の裏技 Part1」セミナーを開催し、47名の方に参加いただきました。講師は、川喜田多佳子研究員が、ティーチング・アシスタントはキャリア育成学科オフィスワークコースの学生7名が務めました。受講生の皆さんには、日常操作している Word・Excel の操作をキーボードのみで行うショートカットキーを中心に学んでいただきました。



## 「魅力ある職務経歴書の作り方」セミナー

12月7日（月）、高田短期大学図書館内のグループワークエリアにて、これから再就職を考えている人向け「魅力ある職務経歴書の作り方」講座を開催し、9名の方に参加いただきました。今回の講座は、野崎千恵研究員が講師を務めました。オリジナルテキストを使用し、職務経歴書の作成の目的や作成時に押さえておきたいポイント、履歴書・職務経歴書を送付する時のマナーなどを実践的に学んでいただきました。受講者の皆様からは、ご自身の棚卸しをしながら自己PRを作成されたこともあり、「自分を振り返ってみる機会になりました」との声を頂戴しました。



## 三重子どもわかもの育成財団との連携協定

高田短期大学は公益財団法人三重子どもわかもの育成財団と連携協定を締結し、12月23日（水・祝）に「三重県立みえこどもの城」で調印式を行いました。三重子どもわかもの育成財団からは理事長の太田栄子氏、高田短期大学からは栗原廣海学長が登壇しました。また、調印式には、本学の地域連携施設から育児文化研究センター長、キャリア研究センター長も出席しました。



本協定は、子どもや若者の成長を支援する取り組みを行うことを通して、互いの機能の向上をめざすとともに、三重の次代を担う人材育成に資することを目的としています。今後、キャリア研究センターも共同研究や連携事業に取り組む予定です。

## 介護福祉研究センター

### 研究活動

#### 定例研究会

	第5回	第6回 第1部	第6回 第2部	第7回	第8回
日時	5月7日（木）	9月3日（木）	9月3日（木）	1月15日（金）	3月11日（金）
参加者	8名	9名	11名	9名	12名
場所	介護福祉研究センター	高田短期大学図書館	高田短期大学図書館	介護実習室	介護実習室
テーマ	「社会保障と税の一体改革」	「自閉症スペクトラム障害者の地域生活支援システムに向けての一考察」	「日本国憲法9条と福祉」	「保育（施設）実習における学生の学びと課題」	「若年性認知症をかかえる人と家族」
発表者	田中 薫研究員	植木 是研究員	武川眞固研究員	藤重育子研究員	上原香織研究員

介護福祉研究センター紀要「高田短期大学介護・福祉研究第2号」発刊（平成28年3月発行）研究論文4名、実践報告2名、研究ノート1名分を掲載し、3月15日発刊しました。

## 実施事業

### 介護福祉セミナー

	第1回		第2回	
日時	6月21日(日) 第1部 13:00~15:00 第2部 15:00~17:00		12月20日(日) 14:30~17:00	
参加者	26名	26名	19名	
テーマ	「褥瘡とポジショニング」	「音楽レクリエーションを体験しよう」	「音楽療法の実際」	「お楽しみ落語」
講師	高山文博研究員	矢野加奈子研究員	佐野恭子研究員	桂三発研究員
場所	介護実習室	育児文化室	育児文化室	



### 介護職員のためのキャリアアップ講座

	第1回	第2回	第3回
日時	7月22日(水)	12月9日(水)	12月16日(水)
参加者	40名	36名	16名
テーマ	「ターミナルケア研修」		
講師	福田洋子研究員		
場所	特別養護老人ホーム安濃聖母の家		



### 高校生を対象とした介護福祉啓発活動

日時	7月24日(金) 10:00~15:00
参加者	13名
場所	特別養護老人ホーム安濃聖母の家 特別養護老人ホーム報徳園



### 地域の高齢者との連携事業

日時	11月16日(月) 11:00~14:00
参加者	シーズネット三重に所属する22名
場所	介護実習室



### 福祉施設との交流事業

日時	1月28日(木) 14:00~15:00
参加者	本学学生と入所高齢者
場所	特別養護老人ホーム報徳園



## その他の学内情報

### 「高等教育機関魅力向上支援補助金」に採択

今年度三重県が募集した「高等教育機関魅力向上支援補助金」に採択されました。本事業は、地方創生の一環として、県内の高等教育機関における学生の確保や、学生の県内就職、または地域課題の解決等を支援することにより、県内の人口減少の克服と地域の自立かつ持続的な活性化に資することを目的とされており、県内高等教育機関から申請のあった10事業の中より、本学を含めた3事業が採択されました。

本学は「『未来』・『夢』・『実現』 応援プロジェクト」として、①女子サッカーのクラブチームを創設すること、②外国人留学生の介護福祉士を育成することにより、学生の確保と学生の県内企業への就職者増加を目指すことを目的としています。

プロジェクトの概要は、以下のとおりです。

①元なでしこ JAPAN 宮本ともみ監督のもと、短大生を中心と社会人、高校生、中学生までを対象とした女子サッカークラブチームを立ち上げました。これによって、中学生から社会人までの幅広い層が選手として活動できる拠点となり、周辺地域への若者定着を図ります。

②高田短期大学独自の留学生支援プログラムを立ち上げ、県内の介護福祉施設で就労する留学生を育成します。

補助事業費は、平成27年度7,570千円、平成28・29年度は各9,000千円です。

### 仏教行事委員会

#### 学内仏教行事の実施

	日 時	参加者	講 師
新入生本山参詣	4月 6日(月)	234名	学長 栗原廣海
宗祖降誕会	5月18日(月)	345名	非常勤講師 清水谷正尊
灌仏会	6月22日(月)	316名	仏教教育研究センター長 金信昌樹
追弔会	10月19日(月)	332名	キャリア支援センター職員 高橋孝範
報恩講	12月14日(月)	363名	高田幼稚園職員 佐藤弘道



### 子ども学科

#### 学科FD学習会

日 時	9月17日(木) 13:00~16:00	場 所	第4会議室
テーマ①	「ループリック評価について」	講 師	子ども学科講師 寶來敬章
テーマ②	「学生の自己成長感を保障する保育実習指導の借り方」	講 師	子ども学科教授、全国保育士養成協議会専門委員 鷲見裕子

### キャリア育成学科オフィスワークコース

#### スキルアワード

学生の資格取得を応援するため、資格取得に努力し、良い成績をあげた学生を各学年で学期ごとに表彰しています。資格レベルによって「★」の数を設定し、合格した資格に応じた「★」の数を集計し、「★」の数をたくさん取得した学生に優秀賞を、特に難しい検定に合格した学生に特別賞を与えています。

また、オフィスワーカーとして必要な能力を身につけたことを証明する



コース認定制度を設け、指定した複数種類の検定に合格した学生を、「オフィスマスター」として認定しています。また、オフィスマスターをベースに特定分野の難しい資格を取得した学生を「オフィススペシャリスト【各分野】」として特定分野に強いオフィスワーカーとして認定しています。全員がオフィスマスターを取得することを学科の目標としています。

平成27年度前期・後期・卒業時の表彰対象者は下記の通りです。

前期の表彰	平成27年4月13日（月）、平成26度後期（1年生後期）の資格取得実績をもとに、優秀賞（14名）、特別賞（4名）、オフィスマスター（21名）、オフィススペシャリスト（4名）の学生を認定し表彰しました。
後期の表彰	平成27年10月5日（月）、平成27度前期（2年生前期）の資格取得実績をもとに、優秀賞（2名）、特別賞（11名：内訳は、サービス接客検定準一級を合格した9名、表計算検定初段に合格した2名）オフィスマスター（1名）、オフィススペシャリスト【接客】（8名）の学生を認定し表彰しました。
卒業時の表彰	平成28年3月18日（金）、平成27度後期（2年生後期）の資格取得実績をもとに、優秀賞（1名）、特別賞（3名）、オフィスマスター（1名）、オフィススペシャリスト（秘書1名、接客1名）の学生を認定し表彰しました。

### 三重県経営者協会主催「インターンシップ事前研修会」参加

6月7日（日）、津市センターパレスで実施された三重県経営者協会主催「平成27年度インターンシップ事前研修会」に参加しました。

三重県内の短大・大学生が約200人参加した中で、オフィスワークコース2年生の吉村茉琳が、自らが体験して感じたインターンシップの重要性や、それを通じてどのように成長できたのか、これからインターンシップを体験する学生へ伝えたいことなどインターンシップでの体験談を報告しました。



### 入学者確保講座「エントリーシートの書き方と面接のマナー講座」

本年度キャリア育成学科では、入学定員確保のため、地域連携施設とも連携しながら学科の魅力を広くアピールし、高校生に選択してもらえる学科を目指し、学科独自のワーキンググループを立ち上げました。

7月24日（金）には、短大に進学して三重県内企業のオフィスで働きたいと考えている高校3年生39名を対象に「エントリーシートの書き方と面接のマナー講座」を実施しました。

今回は、キャリア育成学科長の杉浦礼子教授が、素敵な印象を面接官に与える面接のマナーのポイントを、同学科野呂健一講師が、自分らしさを読み手に伝えるエントリーシートの書き方を講義しました。



### フレンテトーク開催

7月23日（木）、「キャリアデザインI」において、三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」専門員で、ワーク・ライフ・バランスコンサルタントの服部亜龍氏に講演をしていただきました。講演テーマは「あなたのキャリアデザインのために」で、あらゆる希望を叶えるために「男性は仕事・女性は家庭」という固定的概念を払拭して、「男性も女性も、仕事も家庭も」をキャリア形成の基礎にしてほしいと、熱く語っていただきました。



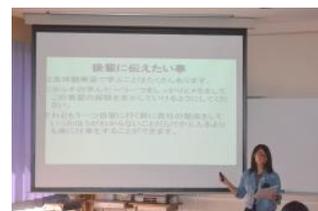
## 社会体験実習の実施

今年も夏期休業中を利用して約10日間にわたる「社会体験実習」に多くの学生が参加しました。若年者就業対策の一環としてインターンシップ事業が普及していますが、本学オフィスワークコースの社会体験実習は17年の歴史を積み重ねており、またインターンシップとは異なる独自の就業体験プログラムを構築しています。

今年度は、48名の学生が履修し、官公庁・公民館・自動車販売店・ホテル・百貨店など県内19事業所23箇所に分かれて実習を体験しました。

9月28日(金)には、社会体験実習で学んだこと、実習内容、今後の課題などを一人ひとりがパワーポイントを用いて5分間で報告した内容を学生同士が相互評価をする「社会体験実習報告会」を実施しました。また、

10月22日(木)には学生を指導していただいた事業所の担当者の方を本学に招いて「社会体験実習反省会」を開催いたしました。



## キャリアデザインIIロールモデル講演会開催

キャリア育成学科のオフィスワークコース、介護福祉コースの1年後期科目である「キャリアデザインII」において、多様なキャリアを積んだ方や、様々な業種・職種で活躍されている方に講演していただきました。この科目は、様々なロールモデルによる講演を聞くことで、社会で求められる倫理観・社会性、責任感などを培うことを目的としています。

27年度は銀行や医療現場などで活躍されている学内外8人の方に講演いただき、なかには、本学卒業生による講演もありました。

なお、この科目では、講師との打ち合わせ、当日の進行などは受講学生が行っています。



## 「税を考える週間」

「税を考える週間」に合わせて、キャリア育成学科オフィスワークコース2年生の10名が、税や財政、社会保障に関する調査研究を行い発表しました。本学で開催された高短祭において研究成果を展示した後、市内のアスト津、ショッピングセンターイオン津南サンバレーにおいても一般公開しました。

## 電話対応コンクール

ビジネスマナーの授業の成果として平成28年1月28日(木)、高田短期大学講堂にて電話対応コンクールを実施しました。今回のテーマは「聴きとる力を磨き、訊きだす力を鍛える」。長谷川聡子先生が担当するビジネスマナーIIの講義で修得した電話対応の知識・技能を活かしながら、電話をかけてきたお客様に満足していただける対応を目指して各チームがスクリプトを作成し、競技に挑みました。優勝および準優勝、3位に入賞したグループには、栗原廣海学長から賞状を授与されました。



## 保護者懇談会

平成28年2月7日(日)に開催した保護者懇談会は、大全体の会の後、オフィスワークコースの保護者を対象にカフェテリア西で実施した。オフィスワークコースでは、学科・コースの教育についての説明の及、進路指導就職活動について説明をし、その後各ゼミに分かれグループ懇談を行いました。参加された保護者の皆様からは、ゼミ別のグループ相談に高い満足感を得ていただく結果となりました。なお、

27年度の保護者会にはオフィスワークコースへ25人の参加がありました。

### 入学予定者向け出校日の実施

平成28年2月12日（金）、来春キャリア育成学科オフィスワークコースに入学予定の皆さんを対象に、初めて「入学予定者向け出校日」を設定し、実施しました。これは、今、検討すべき課題となっている高大接続システムに向けた取り組みの一環で、入学前課題として課している状況の中間報告のほか、春からの短大での生活・学修にスムーズに移行してもらうことを目的に実施しました。

オフィスワークコースの学生が頻繁に利用する施設の一つPC教室では、タイピングの基本を学びました。また、楽しい会話に花が咲くカフェテラスでは、返信用封筒の書き方を学んだり、ゲーム感覚で初対面の人とたくさんコミュニケーションをとったりしました。



### 春季就職特別講座

平成28年2月12日（金）、3月1日（火）の2回にわたり、春季就職特別講座を開催しました。本年度よりナリス化粧品様の協力を得て、メイクアップ講座も導入し実施しました。

第1回	メイクアップ講座、面接で失敗しないためのビジネスマナー（講演） グループディスカッション、これからの就職活動
第2回	先輩の就職活動体験談（ダイワコーポレーション、三重ダイハツ） 「差がつくエントリーシート・履歴書の書き方」（ビデオ上映） エントリーシートの注意点、企業研究の進め方 エントリーしてみよう（講演） 模擬面接（1分間自己PR）／各自企業研究

### 卒業研究レポート発表会

平成28年1月27日（水）3限目に、本学大講義室で卒業研究ゼミナールの締めくくりとなる卒業研究レポート発表会を実施しました。学科長挨拶の後、各ゼミナールにおいて選抜された代表者6名がパワーポイントを活用しながら自らが取り組んだ研究内容をプレゼンテーションしました（発表者は下の通り）。なお、本発表会には1年生も全員参加し、2年次に自らも取り組むこととなる卒業研究レポートについて触れました。最後に栗原学長より総評をいただきました。

発表者・テーマ一覧	
「ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの低迷と復活」	竹内 稚晶（岡田ゼミ）
「高田短期大学のマーケティング」	松下 弥生（杉浦ゼミ）
「日本の政治経済 ～アベノミクスとは何か～」	出口 真衣（田中ゼミ）
「なぜ若者世代から人気を得ているのか ～二人の人気歌手の歌詞から読み取れること～」	前崎 美穂（野呂ゼミ）
「十字軍がもたらした影響」	井上 紗耶加（島山ゼミ）
「ネットショッピング詐欺について」	早川 季良（鷲尾ゼミ）



## 平成27年度第1回学科FD

キャリア育成学科第1回FD			
日時	8月31日(月) 16:30~18:00	場所	図書館グループワークエリア
テーマ	「科研費の申請手続きと採択されるための書き方のポイント」		
講師	三重大学教育学部 下村勉教授		
内容	本年度第1回目となる研修会は「研究」に焦点を絞って、科研費の申請手続きと採択されるための書き方のポイントについてご指導いただきました。		
			
オフィスワークコース第1回FD研修会			
日時	11月7日(土) 13:00~15:00	場所	第6演習室
テーマ	高大接続システム改革会議「中間まとめ」について		
内容	高大接続システム改革会議「中間まとめ」のうち、学力の3要素、具体的方策、重視すべき観点と大学に求められる取組について学科教員が理解を深め、学科・コースの現状と照らし合わせながら、対応できていること、改善すべきことなどについて意見交換を行いました。		
オフィスワークコース第2回FD研修会			
日時	1月26日(火) 17:40~19:15	場所	第4会議室
テーマ	「高田短期大学FD研修 高大接続システム」		
講師	キャリア支援センター長 土肥 稔治先生		
内容	高大接続システム改革に向けた高等学校での取り組みについて、校長先生として赴任された各高校での具体的な取組を交えながら講演いただきました。また、アクティブラーニングについての取組も紹介いただき、教員からの質問にも回答いただきました。		
			

## キャリア育成学科介護福祉コース

### 介護福祉コースFD学習会

日時	9月24日(木) 10:00~12:00	場所	介護福祉コース準備室
テーマ	「国会の法案審議の状況について -社会福祉法等の一部を改正する法律案(国家試験化)及び出入国管理及び難民認定法の一部を改正する法律案(留学生の卒業後の在留資格)-」		
講師	キャリア育成学科 介護福祉コース長 千草篤磨		

## ボランティア活動支援室

本学の教育理念である「やわらか心」の実践の場として、全学生にボランティア体験活動を推奨しています。また、参加した学生らのボランティア活動の成果は、三重県教育委員会「高等教育機関の専門的な知識や技能を活かす教育プログラム」を始め、三重県戦略企画室が進める大学と地域との協働プログラムへも活かされるよう独自のプログラムを用意しています。



## 全国的にも注目されるユニークな活動

三重県警察本部との協働プログラムの立ち上げ  
 サイバー犯罪対策課とのサイバー犯罪被害防止策  
 通信指令課との「110番の日」のイベント企画  
 タイ・ラオス山岳少数民族の子ども支援プログラム  
 トイレのない小学校へのトイレづくり



## 「コンソーシアム三重」主催のFD・SD研修会

8機関合同のFD・SD研修会を開催しました。

研修終了後、参加者からは研究倫理についての認識が深められたとの意見が多く聞かれ、大変有意義な研修会となりました。

日 時	12月25日(金) 14:00～16:00
場 所	津駅前 アスト津4Fアストホール
参加者	コンソーシアム三重加盟校の教職員194名(本学27名)
講 師	学校法人河合塾教育研究開発本部 教育情報部部长 近藤 治 氏
内 容	「2018年以降の高等教育機関が迎える環境変化を考察する -見えていること・見えていないこと-

## 施設設備の整備事業の実績

	業 者	金 額	施工・納品時期
体育館2階 製氷機購入	スズカン(株)	248,400円	平成27年5月
1号館3階造形演習室 机・椅子入れ替え	株式会社三重額縁(机) 中屋株式会社(椅子)	2,460,369円	平成27年5月
音楽棟漏水による3階内 装修繕・屋上防水工事	日本土建(株)	6,264,000円	平成27年7月 ～9月
音楽棟漏水による2階エ アコン入替工事	エリイ設備	1,004,400円	平成27年8月
大講義室プロジェクター 入替	シンリョー特機(株)	641,088円	平成27年10月
図書館屋上防水工事	(株)日建エンジニアリング サービス	15,768,000円	平成28年2月



製氷機



造形演習室 机・椅子



音楽棟

# 高田中学校・高田高等学校

## キャリア教育の推進

生徒が育つ社会環境の変化に加え、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等は、生徒たち自らの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしています。また、環境の変化は生徒たちの心身の発達にも影響を与え始めています。とどまることなく変化する社会の中で、変化に恐れず、社会に対応していく力と態度を育てることが不可欠となってきました。

生徒が未知の知識や体験に関心を持ち、仲間と協力して学ぶ楽しさを通して、未経験の体験に挑戦する勇気とその価値を得ることで、生涯にわたり学び続ける意欲を維持する基盤を作り出せるものと考えています。

社会体験等の校外活動は、他者の存在の意義を認識し、社会への関心を高めたり社会との関係を学んだりする機会となり、将来の社会人としての基盤づくりともなると定義づけられています。

その基本に基づき、本校は、ほとんどの生徒が進学を希望している関係上、進路情報の豊富な企業や大学と連携し、自己研鑽の一助としています。また、夏休みを利用しての体験型校外学習として、高校4年生は、自らコンタクトをとり現場へ直接出向き、実際に社会で活躍している方々の話を聞くなどして、自分自身が求める将来像について、より一層理解を深めるべく自己努力に努めていきます。

### 進路・職業観を考える講演会・座談会

鈴鹿医療科学大学連携講座	
対 象	高II・III年
実施日	5月22日(金)
題 目	医療系学部の現状講演
講 師	薬学・看護・医療技術学部関係者
ベネッセ進学フェア	
対 象	高I
日 時	6月20日(土)
場 所	愛知県体育館



### 高4年 校外宿泊学習（8月2日から4日まで東京を中心とした企業・大学で実施）

生徒は中学3年より準備をすすめ、～夢への一步を踏み出そう～をテーマに、さまざまな大学・企業等の実際の現場を見学することにより、社会人とはどうあるべきかを体感し、自己の進路意識を高め、共通の進路希望を持つ友人やクラスメイトと一緒に行動することで社会常識やマナー、交友関係を広めることができました。

8月2日の夜は福島大学教授白石豊氏の「夢をかなえるコツ」をテーマにした講演を拝聴し、目標の設定の仕方や達成への技術について具体的に解説していただきました。

翌日は朝から夕方まで、生徒自身が興味を持っている分野の先輩・会社・大学を訪問しました。これにより、個々の進路を考えるきっかけになったのは勿論のこと、夜は卒業生を交えて社会常識やマナーを学ぶ良いきっかけになったと思います。生徒たちはこの研修を基に、高校生活をより豊かなものにしていくと考えられます。



## 部活動の推進

部活動は学年や学級を離れ共通の興味と関心を追求し、その中でマナーやルールを守る社会性を身につけることや、自らの意思で参加し活動するという自主性を養い、活動を通して体力や技術の向上にとどまらず、個性の伸長を図ることを目的とする教育活動の一つであります。

集団活動の中で協力することを学び、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、部活動の楽しさや喜びを感じ、学校生活に豊かさをもたらすだけでなく、生涯にわたってスポーツ・文化・芸術・科学に親しむ豊かな人間性を培うことを目指し、継続的に取り組んでいます。

また、中学生においては人間形成をはかるうえで重要な時期であるため、継続し続けることに関して部顧問が適切に対応しており、自分を律し他人を思いやることや社会のルールを学ぶ機会となっています。

練習成果を競う県内大会において優秀な成績を収めることで、更なる大きな目標である全国・東海大会への出場という意欲が部活動の大きな継続性になっていると考えられます。

平成28年3月現在のクラブ活動所属生徒数				
高等学校	文化部	25部	537名	(男132名・女405名)
	運動部	18部	666名	(男425名・女241名)
	同好会等	5部	37名	(男33名・女4名)
	計			1,240名
中学校	文化部	11部	159名	(男71名・女88名)
	運動部	11部	380名	(男235名・女145名)
	同好会等	6部	26名	(男6名・女20名)
	計			565名



新体操部  
個人総合優勝



活動実績		
高等学校		
運動部	インターハイ	堀 孝輔 (新体操個人総合優勝) 卓球・馬術
	国民体育大会出場	馬術・空手道・ヨット (個人参加)
	その他東海大会出場	柔道・水泳・軟式野球 なぎなた・陸上競技
文化部	全国大会出場クラブ	将棋・放送・俳句・文芸
中学校		
運動部	東海大会出場クラブ	陸上競技

## 防災教育・危機管理教育の取り組み

火災、地震など予測不可能な緊急事態が発生した場合、発生時に冷静な判断力、速やかな行動力を発揮できるよう、防災意識の高揚に取り組むべき事業展開を推進しています。

本年度も昨年度同様、地域住民の方(約150名)及び消防署との連携のもと、地域住民は災害発生時避難所指定されている本校までの避難経路の確認と、地域間状況把握連携の確認のため本校との合同避難訓練を実施し、参加生徒は体の不自由な方の避難介助を行ったり、バケツリレーによる消火活動を行ったりといった体験型訓練が実施され、本校が避難所指定されていることを意識付ける良い経験ができました。

また、本年卒業生が学校へ寄付していただいた非常食を地域住民備蓄用品として贈呈し、地域貢献にも努めています。

危機管理の取り組みとして、学内機密情報の保護のため、パソコンや端末記憶装置持ち込み等について、取扱規則を定めて個人情報の漏洩がないように、教職員に意識の徹底をはかっていると共に、学校関係者や生徒間での誹謗中傷を早期発見するためトータルにサポートする事業を専門業者に委託して危機管理に努めています。

保護者へのいろいろな情報発信源として「あんしんネット」、「きずなネット」を利用し最新情報を随時的確に提供しています。

避難訓練 平成27年9月2日(水)実施	
目的	地震発生時における避難場所、避難経路の確認 地域の住民の実態を把握する 本学と地域住民の連携による避難誘導
要領	想定状況：震度5弱および大津波警報発令
訓練内容	避難の実働訓練 地震発生による身の安全確保、 および地域住民の避難誘導・避難介助 消防署の協力のもと、生徒によるバケツリレー 起震車体験、AED体験 車いす避難者介助救護訓練など その他、協力団体による非常食等の試食体験 地域住民への防災用品の贈呈式



## 教職員資質向上への取り組み（初任者研修、学内研修、中部私学研修、中堅研修など）

### 新規採用教員研修の推進

初任者研修として中京地区の他の私学教員と8月19日から21日までの3日間で愛知・岐阜・三重県下私立学校合同合宿研修を実施し、私立学校教員としての実践的指導力と使命感を養うと共に、幅広い識見を習得させることや心構え等について研修し教育指導の充実を図りました。（本年2名参加）

研修参加教員からは、終了後教員として自覚がより深まり、組織の大切さを実感したという声が寄せられました。

初日	講演テーマ 「良好な人間関係を築くための コミュニケーションスキルを学ぶ」 「私学教育の現状と課題」	ディズニーランド 伝説のトレーナー 日本私学研究所	町村 義之氏 平方 邦行先生
2日目	グループワーク	日本体験学習研究所長	津村 俊充先生
3日目	集団行動訓練	至学館高等学校 愛知啓成高等学校	稲垣 克憲先生 大友 伸夫先生

さらに本校においても教員として一日も早い自立を目的として、独自に学内研修に取り組んでおり、本年も指導教員が生徒との接し方や指導方法、事務的内容など下記の内容で12回の研修を実施しました。また、終了後は翌年度の実施計画案について、オフサイトミーティングを行いました。

平成27年度 初任者研修 年間計画表

	研修テーマ	実施日時	担当者	研修場所	備考
1	初任研OR	4月17日(金) 15:40~16:30	蛭尾	4号館会議室	教頭
2	高田の歴史と建学の精神について	4月23日(木) 15:40~16:30	学校長		学校長
3	学校法人の規定について	5月 8日(金) 15:40~16:30	河北		事務局長
4	教職の実務 中・高の教務	5月14日(木) 13:30~14:20	榑中		教務部長
5	学校評価	6月11日(木) 15:40~16:30	下村		教頭
6	学校の危機管理	6月19日(金) 15:40~16:30	米田		教頭
7	人権推進教育	7月16日(木) 14:00~14:50	水野ヒ		人権教育委員
8	生徒指導	8月 6日(木) 10:00~10:50	大西		生徒指導部長
9	教育相談	9月 3日(木) 15:40~16:30	米田		教頭
10	特別支援教育・カウンセリング	11月 5日(木) 15:40~16:30	的場・ダイクス		兼課教育・学校カウンセラー
11	進路指導	11月12日(木) 15:40~16:30	鈴木キ		進路指導部長
12	コンプライアンス (服務規程と教育法規)	12月 3日(木) 13:30~14:20	下村		教頭

## 教員研修の推進

教育を取り巻く環境が大きく変化する中で学校教育に対する期待に応えるには、教員の資質能力向上とスキルアップが必要なため、それに対応できる教員研修を推進しています。

多種多様な資質能力を持つ人材の集まりである教員集団が連携することにより充実した教育活動が展開できることから、その能力の保持のためにも研修は重要と考えております。

研修については、これまでの自分自身の教育活動を振り返るとともに、教育界の最新情報を得て将来への課題を自覚し、これからのリーダーシップを発揮するためのものです。

本校のほとんどの生徒が大学進学を希望している関係上、少しでも生徒に有利な環境に導くよう大学ごとの入試問題検討会にも積極的に参加し、大学によって毎年変更される問題傾向や入試情報の把握に努めています。

また、公立中学校へ出向いて本校の模擬授業を実施するという事は、本校教員の資質を問われる関係上、普段以上の緊張感で接し、より自分自身の研究も必要となり、教員としての資質向上につながっていくものと考えられます。

さらに、全国研修として本年度より10年経験者研修が「中堅教員研修」と改称された、日本私学研究所主催の研修に参加し(8月2~3日本年2名参加)、1泊2日の短い期間ではありますが、「学校危機管理」「コミュニケーションにおける誤解の理解」「教育界の現状と課題」「アクティブラーニングにおける思考力・表現力」の4テーマに基づき講義や討議を通じて意識の高揚に努めました。分散会、総合討議などにより、同年代の教員が交流することで今後の私立学校をリードするための知識能力がつけられ、明日への活力が得られる研修会であります。

その研修内容について職員会議等において報告を行うなどし、他の教員とも情報共有することで確実に教員全体の意識向上につながっており、その成果が生徒へ還元されていくことで、教育の質の向上を図っていこうと考えています。また、平成27年度生徒満足度調査においても、生徒の質問に対してわかりやすく対応している、と答えた生徒が中学83%、高校69%おり、この数字を上回るべく、教育効果の維持向上に努める必要があると考えられます。

今後も積極的に講習会や研修会、出前授業に積極的に参加し、学内では得ることのできない情報を吸収することで、新人からベテランまでその教員としての資質向上に役立てていくことを目標としていきたいと考えています。

## きめ細やかな学習指導の推進

本校では、生徒の進度や達成度に応じた指導を行うと共に、生徒の学力及び特質に応じたコース・クラス編成を考慮しながらその指導に努めています。

通常の綿密な計画に基づいた授業は勿論のこと、小テスト、補講、夏期講習といった普段では取り組みにくい授業を実施したり、考査後の個別懇談をするなどして進路実現のためのサポートを実施したりしています。

さらに、夏季休業中においては各学年創意工夫されたセミナーを実施し、苦手な分野の克服に努めており、生徒も有意義な時間を過ごしています。

また、学習以外の面で、不登校や精神的な悩みを抱える生徒の増加が見られますが、本校においては教育支援委員会、生徒指導部、各学年、カウンセラーと協力して保護者や生徒の負担を少しでも軽減できるように努め、明るく元気な学校生活ができるよう取り組んでいます。

今後も親切丁寧な繰り返し学習や習熟度に応じた個別指導を行うことにより、学習意欲と実力向上に努めていき、生徒全体が楽しく充実した学校生活を送れるよう、きめ細かく生徒の実情把握に努力していきます。

## 命の大切さを考える教育の推進

本校の建学の精神である「仏教の教え、親鸞聖人の教えに基づく宗教的情操教育」を校訓として、仏教教育による人間味の豊かさを求め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会貢献できる人材の養成を目指した教育を行っています。

月1回の本山参詣や週1時限の一般仏教において自他共にかげがえのない「命」を尊重し、人間は一人で生きられない存在であり、他者と共感共有し支え合って生きる重要さに気づかせています。

また、その場で法話を聴くことを通して、聴くことの大切さ、その受容により共感する大切さを身につけることにつながると考えられます。これらの体験活動を基盤として人権学習とも連携しあい、社会でのマナー、コミュニケーション力を向上させ、自然との共生に関心を持って身近な日常生活の中で思いやりと慈しみのある生き方をじっくり養成しています。いじめ問題に対しても適時アンケートを実施し事実関係を把握し毅然とした指導を行っていきます。



## 国際交流事業

目的	国際感覚豊かな人間育成のため、授業や諸行事に参加しながら異国の学生生活を体験し、友好を深めること。 互いの生活習慣や文化を学び、今後の交流振興に貢献すること。 受け入れ家庭が、生徒と共に学び、生活することにより異文化理解を深めていくこと。
----	---

参加生徒においても、ホームステイの関係から家族全体で国際社会に対する目を開くことにより、外国語に対しても興味を抱き卒業後の進路選択に影響を与えた生徒も少なくない状況です。

## オーストラリア交換留学生受け入れ

期 間	9月13日（日）～9月24日（木）		
受入校	パレード校	17名（男17名）	引率教員2名
	セント	15名（男7名・女8名）	引率教員2名
	モニカズ校		



本校の授業に参加して生徒の家庭にホームステイすることにより異文化を体験し、さらに日本を象徴する場所伊勢・京都・名古屋・大阪への訪問を通して、日本の素晴らしさに一層興味を抱いてもらうことで、国際交流の意義が発揮できるものと考えられます。

## オーストラリア交換留学生訪問

期 間	平成28年3月11日（金）～25日（金）		
訪問校	パレード校	19名（男12名・女7名）	引率教員2名
	セント	18名（女18名）	引率教員2名
	モニカズ校		



各家庭にホームステイすることにより異文化を肌で感じ、本場の英会話を体験することにより、自分の英語能力を試す機会にもなっています。また、友人関係とか、視野の広がりなど国際感覚を養ううえで貴重な経験となっています。

## イギリス語学研修

期 間	7月17日（金）～8月2日（日）		
人 数	30名	引率教員1名	

昨年度よりイギリスギルフォードにある語学学校のインターナショナルクラスで、他国生徒とともに英語を学ぶ英語学習に主眼を置いた研修プログラムで、高校生の短期語学研修を実施しました。

生徒たちは、事前ワークショップにおいて「間違いを恐れずやってみる」という姿勢が大切であるということを経験し、本事業に参加しました。

この研修の対象者は英語に関心が深く、英語学習に意欲的に取り組んでいる生徒の中で選抜された生徒が参加しており、出国前のレベル試験を受けて海外での語学研修（1日6時間を7日間）後もレベルアップの程度を見る試験を受けています。さらにホームステイにより英語の運用能力の向上や英語学習へのより一層の動機付けを促し、学習意欲を育むだけでなく、他国の生徒との交流が国際人としての国際感覚を養うこととなりました。



## 学校自己点検・学校関係者評価

### 学校関係者評価委員会

自己評価や保護者、学校関係者による評価の実施・公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者や地域住民からの理解と参画を得ながら、学校・家庭・地域の連携協力により生徒の穏やかな成長をはかり、健全な学校づくりを推進することを目的としています。

なお、評価委員会は委員数9名（教育関係者、学識経験者、地元企業、地域自治会、保護者会）から成り立っています。

第1回 平成27年6月16日（火）

学校の仏教行事である花まつりを見学後、学校現況について説明しました。その後

	各委員から意見をいただき、質疑応答形式で進められました。各委員からは通学路関係や今後の道徳授業における仏教授業の関わりや進路関係について質問が出されました。本校からは校長、教頭が出席し、質問への回答や学校の現状について細かく説明を行い、理解を求めました。
第2回	平成27年10月29日(木) 平成27年度上半期の学校現況報告、授業アンケート及び体罰・いじめ調査結果報告に基づき行われた意見交換では、各委員より建設的な意見をいただきました。
第3回	平成28年2月18日(木) 生徒の満足度調査及び体罰・授業アンケート結果報告に基づき行われた意見交換では、各委員より建設的な意見をいただき、平成27年度総括として概ね良好な評価をいただきました。

### 学校自己評価

学校自己評価については、例年どおり「学校の教育目標や教育活動の内容・方法、教育成果、学校の管理運営などについて、より一層の教育活動の充実をはかる」という趣旨で教育活動全般にわたる自己点検・評価を行い、継続的な改善更新、改革をはかっています。

#### 平成27年度の目標

目指す学校像 (教育理念)	生徒・保護者・社会の期待に応え、伝統を重んじ信頼される私学を目指す。校訓「言行忠信 表裏相応」の精神のもと、人間性豊かな人材を育成する。崇高な志と社会に貢献できる人材を育成する。 自分の夢の実現に向けて、自ら学び、自己を律し、行動できる人材を育成する。
重点努力目標	人権・同和教育の推進、進路指導の徹底、基本的生活習慣の確立、規範意識に則った行動力を育成する、学力の向上と充実錬磨に努める、環境を大切に、世界に貢献できる人材の育成に努める。

#### 点検・評価の日程

平成27年4月	前年度学校自己評価への評価結果報告及び継続的取組の促進
平成27年12月	評価項目の確認と評価方法の決定
平成28年3月初旬	(今年度評価項目については、評価結果の継続的推移把握)
平成28年3月末	評価実施
平成28年4月	集計と分析
平成28年5月	職員への結果の公表、評価結果の公表

### 学校満足度調査

調査項目	学校生活全般	学習指導	生徒指導	進路指導	行事・特別活動
	(生徒・保護者・教職員同じ調査項目)				
中学	平成27年度の生徒満足度調査では、学校教育全般においては生徒・保護者ともに理解を得ていますが、個々の事象においては学校としての努力目標が顕在しています。学習指導面では教員と生徒の間では意識に差が見られ、生徒指導面では生徒の規範意識が希薄であるその点の指導について主眼を置いていきます。進路指導面では展望自体がまだまだ希薄であるのが現状です。				
高校	概ね学校環境については満足し、楽しい学校生活を送っていますが、学習指導についてはより分かる授業が期待されています。また、進路面では多様化する生徒への情報提供を進				

路希望に対応していく必要があります。学校の根幹の活動となる学習指導や生徒指導については、教員と生徒の間には明らかな乖離が見られるため、その原因と対策について教員一人ひとりの意識改革を行い、その指導力の研鑽に努めていく必要があります。

## II類特別選抜クラス・数理コースの授業展開

### 特別選抜クラス

本年度よりII類に特別選抜コース（特選クラス・在籍者数32名）を設置しました。個人の資質を最大限に引き出すべく1年次に様々な課外活動に参加し、教員と共に自らの適性をより高い目標の実現に向けてモチベーションを保ちつつ、国公立大学への進学を目指していきます。

早速夏休みを利用して特選クラス及び希望者を対象に、外国人講師による英語に慣れ親しむことを目的として、イングリッシュキャンプを2泊3日で実施しました。

英語で日常会話を行うなど、とにかく英語漬けの研修でありましたが、ほとんどの生徒たちは少しでもこの事業への参加意義を理解し有意義に過ごすことができたと考えられます。



### イングリッシュキャンプ

期 間	8月5日（水）～7日（金）		
場 所	鈴鹿青少年センター	人 数	66名

### 数理コース

II類数理コース（3年23名、2年58名在籍）においては高大連携を中心とした授業展開を行い、3年間一貫の学習指導はさらなる未来に貢献し、活躍する人材の育成に結びついていくことを確信しています。

数理コースは文理コースより数学・物理の授業時間を多く実施し、早い段階での体験型探求入門講座と位置づけし、2年は高大連携体制で生徒の理数系への興味・関心を深めることを目的として多くの理数系大学と連携し、知的研究心を育成しています。



## 教職員海外研修

### 私学教職員海外研究派遣事業

派遣教諭	古川 達也
視 察 先	フランス
視察期間	8月4日（火）～8月11日（火）
視察 研究内容	近年の地理教育の中で先進国地誌においては、第3次産業や生活の内容が濃くなっている。それに関連して日本の大都市と比較し、成り立ち、景観保護、再開発で対照的な姿を見せるパリを研修対象地として、フランスの産業や人々の暮らしを直接見ることで今後の授業に厚みを持たせていきたい。



私学教職員海外研究派遣事業	
派遣教諭	間瀬 朋昭
視察先	チェコ・オーストリア・ハンガリー
視察期間	8月6日(木)～8月14日(金)
視察研究内容	第1次世界大戦から百年を経た中欧の歴史、文化を宗門立の教員としての観点から視察し、平和人権教育に活かしていきたい。



## 人権教育研修の推進

本校では、生徒達には「うわさや偏見に流されず真実を確かめ自分自身の考えを持つ」「差別に立ち向かい行動する力をつける」「他者の異なった価値観を尊重しながら仲間同士のつながりを強める」ということを目標として人権教育を実施しています。

さらに、本年も人権センター主催の研修会へ積極参加することにより、教職員の人権意識向上に努めると共に、学苑本部主催の夏期研修人権講演会「結～そっとやさしく」を保護者や地域住民と共に拝聴し、人権問題の大切さを痛切に感じられました。

毎年秋の校外宿泊学習において人権問題に関わるコースを組み入れており、その成果を文化祭において発表するなど、中学・高校それぞれ普段の生活において人権を意識したことをテーマに積極的に取り組んでいます。

また、毎年教職員のフィールドワーク（毎年20数名の参加）を実施し、人権問題について積極的に取り組んでいる地域、組織に向いて直接体感することで感じ得たことを自ら再認識し、生徒への教育の一環として還元しています。

（8月26日リバティ大阪・ピース大阪研修）人権教育については、学校のみでは推進することが難しいので、今後も地域や家庭との連携が重要と考えられます。



人権フィールドワーク



文化祭での人権コーナー

## 高田中・高等学校公開イベント

### 小学生を対象とした「学びの広場 in 高田」・中学校入試説明会

高田の魅力を深めるべく興味あるイベントに取り組み、いかにして生徒確保を行うか重要な問題となっている昨今、私立中学校の魅力を最大限に発揮し、その一貫としてより知っていただくために、小学生（4・5年生）を対象とした「学びのひろば in 高田」を年3回開催し、情報発信に努めています。



学びのひろば in 高田			
日時	8月23日(日)	11月1日(日)	2月14日(日)
テーマ	「これって仏教語？」 「プラネタリウム～四季の空」 「親子で楽しむ算数マジック」 「英語で遊ぼう」	たかだ算数 オリンピック 部活動ってなに 「中学校の部活を体験しよう」	たのしい理科実験 平安王朝の世界へようこそ 「let's cook」 おもしろ社会科クイズ
定員	120名(122名参加)	250名(158名参加)	120名(140名参加)
中学入試説明会			
日時	9月23日(水、祝)	参加	約400世帯

以上のイベントの他、広くマスコミを利用した広報活動や、塾を対象とした説明会を積極的に実施し、各地域で開催される私立中学展に出向いてPRに努めています。

### 高等学校公開イベント・オープンキャンパス・個別見学会

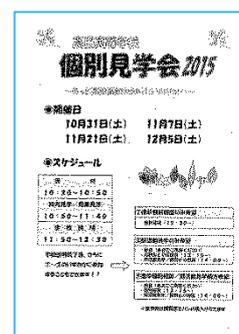
高等学校に関しては、少子化が進む中、教員が各中学校を訪問し受験生と保護者に対し入試関連内容を詳細に説明し、より高田の教育の充実内容を提供しています。

各中学校訪問の他に、オープンキャンパスが8月22日(土)に開催され、生徒や保護者の方1,300名が参加されました。さらにより深く高田を知りたい生徒や保護者を対象に、個別見学会を10月31日・11月7日・11月21日・12月5日の各土曜日に開催しました。こうしたイベントで学校生活や授業内容及びクラブ活動について詳細に説明をし、明るく楽しい学校生活を送っていただくべく事前PRに努めています。

また、経済的に苦しい家庭においても高等教育が安心して受けられるよう、国の就学支援金制度、県の減免制度に加え高田高等学校独自の助成制度(教育充実費相当額助成)も充実させています。なお、対象基準は就学支援金加算制度に準じます。



オープンキャンパス	
日時	8月22日(土)
参加	約1,300名(生徒及び保護者)
個別見学会	
日時	10月31日・11月7日・11月21日・12月5日



### 学校安全・保健計画の推進

学校安全管理の立場から交通ルールの遵守、自転車の安全点検、校内安全点検などを実施すると共に、最近自転車が絡む交通事故が多発している関係上、本校では毎年新生生に対して自動車学校から講師を招き、自転車交通安全講習を実施しています。(平成27年4月24日実施)

本校約900名の生徒が自転車通学をしており、学校周辺は狭い道路や見通しの悪い交差点が多いので、基本的なルールや事故の悲惨さを訴え、知識や技術の向上を図り、地域における自転車事故の減少に努めています。さらに生徒と教員が街頭登下校指導をするなど、マナーアップや安全意識の高揚に努めています。



また、学校保健の立場から、校医健診や他の各種検査を通じ、生徒個々の健康状態を把握し常に健康管理に努めると共に、保健だよりを毎月発行しその時期の内容に合った啓発に努めています。

新たな感染症が発生した場合などの緊急対策や予防教育の推進についても積極的な取り組みに努めています。

## 施設整備の整備事業実績

	業 者	金 額	施工・納品時期
高田学苑多目的グラウンド整備事業	東海土建株式会社	262,440,000円	6月1日～ 12月25日
新体操部タンブリングマット購入	㈱ヨシダ運動具店	3,780,000円	9月16日
新 JIS 規格 生徒用机・椅子等入替 (高5・6年 420名分 教卓10台)	愛知(株)	6,766,200円	H27年4月 (春休み期間中)
新 JIS 規格 生徒用机・椅子等入替 (高11年 420名分 教卓11台)	愛知(株)	6,237,000円	H28年3月 30日・31日 (春休み期間中)



多目的グラウンド  
(サッカーコート)



多目的グラウンド  
(テニスコート2面)



生徒用机・椅子



タンブリングマット

## 財務の概要

### 資金収支計算書の概要

資金収支計算書は、会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。

本学苑の資金収支決算総額は44億7,700万円となり、前年度の決算額と比較し2億7,200万円の増額となりました。

### 平成27年度 資金収支計算書総括

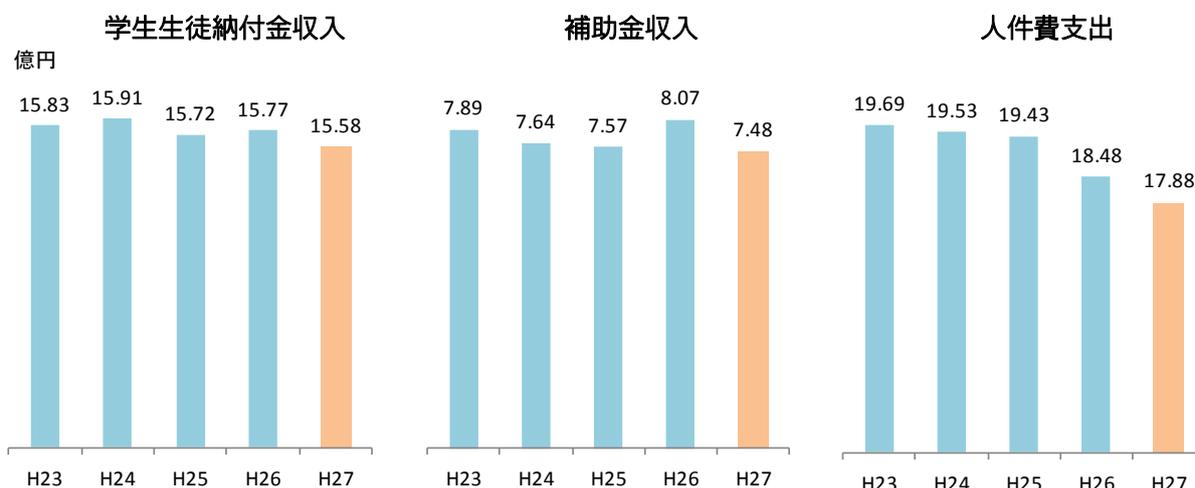
(単位：千円)

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,557,808	▼18,910	人件費支出	1,787,787	▼60,661
手数料収入	50,171	1,403	教育研究経費支出	297,481	▼18,129
寄付金収入	7,006	▼105	管理経費支出	91,912	▼558
補助金収入	748,085	▼58,686	借入金等利息支出	366	366
資産売却収入	0	▼700	借入金等返済支出	130,000	130,000
付随事業・収益事業収入	13,545	▼789	施設関係支出	438,285	404,657
受取利息・配当金収入	15,176	7,231	設備関係支出	32,333	▼4,122
雑収入	130,674	▼20,563	資産運用支出	417,713	45,013
借入金等収入	260,000	260,000	その他の支出	1,054,863	▼190,891
前受金収入	296,999	5,365	資金支出調整勘定	△71,930	▼17,465
その他の収入	1,479,996	12,035			
資金収入調整勘定	△396,146	16,007			
<b>当年度収入合計</b>	<b>4,163,314</b>	<b>202,289</b>	<b>当年度支出合計</b>	<b>4,178,811</b>	<b>288,211</b>
前年度繰越支払資金	313,865	70,426	翌年度繰越支払資金	298,368	▼15,497
<b>収入の部合計</b>	<b>4,477,180</b>	<b>272,714</b>	<b>支出の部合計</b>	<b>4,477,180</b>	<b>272,714</b>

(注) △は計算書式上のマイナス表示、▼は比較上のマイナス表示（以下同じ）。

前年比は平成26年度決算との比較です。

### 主要科目の推移



平成27年度 資金収支計算書（短期大学）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	440,354	▼ 11,278	人件費支出	399,945	16,036
手数料収入	8,839	▼ 275	教育研究経費支出	126,480	16,640
寄付金収入	0	0	管理経費支出	29,762	▼ 1,582
補助金収入	105,177	▼ 39,261	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	0	0	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	13,545	▼ 789	施設関係支出	1,004	540
受取利息・配当金収入	44	8	設備関係支出	7,775	▼ 10,466
雑収入	29,487	14,780	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	144,050	1,322
前受金収入	55,004	▼ 2,470	資金支出調整勘定	△ 39,528	▼ 17,633
その他の収入	127,028	▼ 60,673			
資金収入調整勘定	△ 83,033	▼ 15,974			
<b>当年度収入合計</b>	<b>696,445</b>	<b>▼ 115,932</b>	<b>当年度支出合計</b>	<b>669,489</b>	<b>4,858</b>
前年度繰越支払資金	102,533	33,215	翌年度繰越支払資金	77,645	▼ 24,888
<b>収入の部合計</b>	<b>798,978</b>	<b>▼ 82,717</b>	<b>支出の部合計</b>	<b>747,134</b>	<b>▼ 20,030</b>

平成27年度 資金収支計算書（中・高等学校）

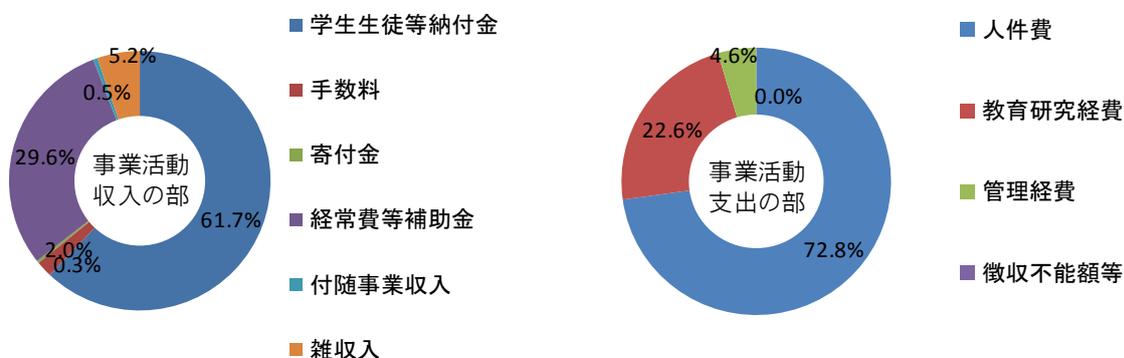
（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,117,454	▼ 7,633	人件費支出	1,377,694	▼ 76,547
手数料収入	41,332	1,678	教育研究経費支出	171,001	▼ 34,769
寄付金収入	2,676	▼ 35	管理経費支出	38,538	687
補助金収入	642,908	▼ 19,425	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	0	0	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	0	0	施設関係支出	437,281	414,061
受取利息・配当金収入	45	7	設備関係支出	22,447	11,295
雑収入	95,233	▼ 40,936	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	725,427	▼ 190,212
前受金収入	241,995	7,835	資金支出調整勘定	△ 25,820	▼ 1,490
その他の収入	818,392	▼ 216,039			
資金収入調整勘定	△ 313,113	31,981			
<b>当年度収入合計</b>	<b>2,646,921</b>	<b>▼ 242,566</b>	<b>当年度支出合計</b>	<b>2,746,568</b>	<b>123,025</b>
前年度繰越支払資金	143,974	18,497	翌年度繰越支払資金	167,094	23,120
<b>収入の部合計</b>	<b>2,790,895</b>	<b>▼ 224,069</b>	<b>支出の部合計</b>	<b>2,913,663</b>	<b>146,145</b>

## 事業活動収支計算書の概要

事業活動収支計算書では、当該会計年度の諸活動に対応する事業活動収入・支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにします。収支を経常的なものと臨時的なものに、さらに経常的な収支を教育活動と教育活動外とに分けて把握することができます。

科 目		決算額	%	科 目		決算額	%	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	1,557,808	61.7%	特別収入	資産売却差額	0	0.0%	
	手数料	50,171	2.0%		その他の特別収入	0	0.0%	
	寄付金	7,622	0.3%		特別収入計	0	0.0%	
	経常費等補助金	748,085	29.6%	特別支出	資産処分差額	317	0.0%	
	付随事業収入	13,545	0.5%		その他の特別支出	0	0.0%	
	雑収入	131,685	5.2%		特別支出計	317	0.0%	
	教育活動収入計	2,508,917	99.4%	特別収支差額		△ 317		
	教育活動支出の部	人件費	1,790,421	72.8%	〔予備費〕			
		教育研究経費	555,617	22.6%	基本金組入前当年度収支差額	64,479		
		管理経費	112,893	4.6%	基本金組入額合計	△ 336,034		
徴収不能額等		0	0.0%	当年度収支差額	△ 271,555			
教育活動支出計		2,458,931	100.0%	前年度繰越収支差額	△ 3,668,283			
教育活動収支差額		49,986		基本金取崩額	0			
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	15,176	0.6%	翌年度繰越収支差額	△ 3,939,838			
	その他の教育活動外収入	0	0.0%					
	教育活動外収入計	15,176	0.6%					
	教育活動外支出の部	借入金等利息	366	0.0%				
その他の教育活動外支出		0	0.0%					
教育活動外支出計		366	0.0%					
教育活動外収支差額	14,810		事業活動収入計	2,524,093				
経常収支差額	64,796		事業活動支出計	2,459,614				



## 基本金について

基本金には第1号基本金から第4号基本金まで4種類の基本金があります。

第1号基本金	施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、本年度の組入額は約3億3,603万円でした。 主な内訳は、多目的グラウンド取得に係る土地代及び造成費用等です。
第2号基本金	施設設備を取得するために、事前に組入れる金額で、本年度はありませんでした。
第3号基本金	教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学基金等の設定であり、本学苑は組入れを行っていません。
第4号基本金	恒常的に保持すべき資金の額の設定であり、本年度の組入はありませんでした。

短期大学

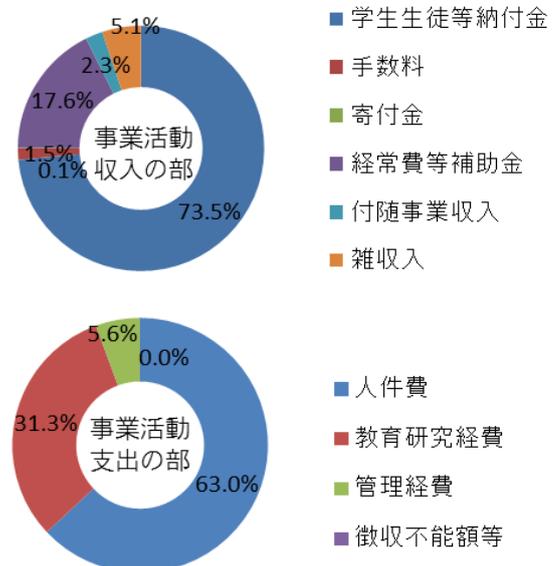
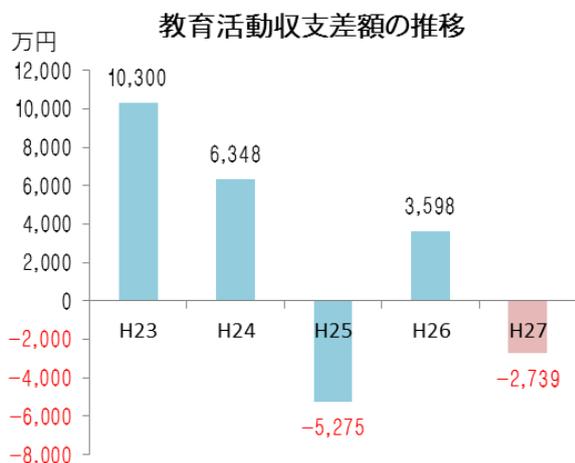
事業活動収支計算書

(単位：千円)

科 目		決算額	%	前年比	科 目		決算額	%	前年比		
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	440,354	73.5%	▲ 11,278	特別収入	資産売却差額	0	0.0%	0		
	手数料	8,839	1.5%	▲ 275		その他の特別収入	0	0.0%	0		
	寄付金	524	0.1%	▲ 85		特別収入計	0	0.0%	0		
	経常費等補助金	105,177	17.6%	▲ 39,261		特別支出の部	資産処分差額	317	0.1%	194	
	付随事業収入	13,545	2.3%	▲ 789			その他の特別支出	0	0.0%	0	
	雑収入	30,498	5.1%	15,791			特別支出計	317	0.1%	194	
	教育活動収入計	598,938	100.0%	▲ 35,896			特別収支差額	▲ 317		▲ 194	
	事業活動支出の部	人件費	394,744	63.0%		15,724	〔予備費〕				0
		教育研究経費	196,391	31.3%		14,015	基本金組入前当年度収支差額	▲ 27,668		▲ 63,563	
		管理経費	35,198	5.6%		▲ 2,257	基本金組入額合計	▲ 7,923		4,625	
徴収不能額等		0	0.0%	0	当年度収支差額	▲ 35,591		▲ 58,938			
教育活動支出計		626,332	99.9%	27,482	前年度繰越収支差額	▲ 2,351,172		0			
教育活動収支差額		▲ 27,394		▲ 63,377	基本金取崩額	0		0			
					翌年度繰越収支差額	▲ 2,386,763		▲ 35,591			
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	44	0.0%	8	(参考)						
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	0	事業活動収入計	598,981		▲ 35,887			
	教育活動外収入計	44	0.0%	8	事業活動支出計	626,649		27,676			
教育活動外支出の部	借入金等利息	0	0.0%	0							
	その他の教育活動外支出	0	0.0%	0							
	教育活動外支出計	0	0.0%	0							
教育活動外収支差額	44		8								
経常収支差額	▲ 27,351		▲ 63,369								

財務比率推移表 (事業活動収支関係)

比 率	H25	H26	H27	全国平均	比 率	H25	H26	H27	全国平均
人件費率	68.0	59.7	65.9	58.2	学生生徒等納付金比率	71.9	69.8	73.5	74.8
依存費率	97.4	83.9	89.6	77.8	経常寄付金率	-	-	17.6	-
教育研究経費率	34.3	28.7	32.8	30.2	経常補助金率	-	-	0.1	-
管理経費率	6.2	5.9	5.9	9.4	減価償却額率	-	-	11.5	-
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.2	経常収支差額率	-	-	△ 4.6	-
事業活動収支差額比率	-	-	△ 4.6	-	教育活動収支差額比率	-	-	△ 4.6	-
基本金組入後収支比率	-	-	106.0	-	全国平均は前年度の値				



## 中・高等学校

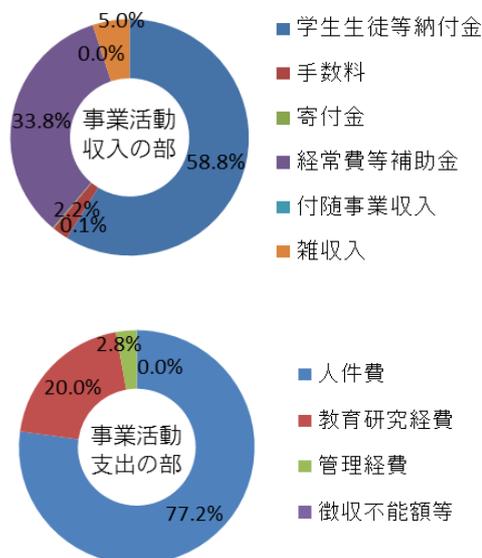
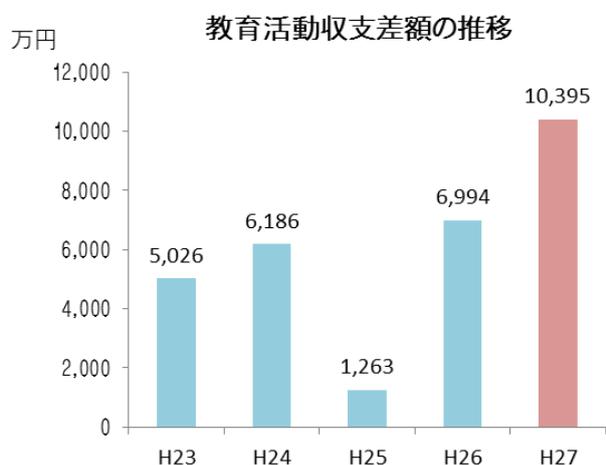
### 事業活動収支計算書

(単位：千円)

科目		決算額	%	前年比	科目		決算額	%	前年比	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	1,117,454	58.8%	▲ 7,633	特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0.0%	0
	手数料	41,332	2.2%	1,678		その他の特別収入	0	0.0%	0	
	寄付金	2,754	0.1%	35		特別収入計	0	0.0%	0	
	経常費等補助金	642,908	33.8%	▲ 19,425		支出の部	資産処分差額	0	0.0%	0
	付随事業収入	0	0.0%	0		その他の特別支出	0	0.0%	0	
	雑収入	95,233	5.0%	▲ 40,936		特別支出計	0	0.0%	0	
	教育活動収入計	1,899,681	100.0%	▲ 66,280		特別収支差額	0		0	
	事業活動支出の部	人件費	1,385,529	77.2%		▲ 64,966	〔予備費〕			0
	教育研究経費	359,227	20.0%	▲ 35,823		基本金組入前当年度収支差額	103,998		34,022	
	管理経費	50,971	2.8%	494		基本金組入額合計	▲ 324,840		▲ 301,469	
徴収不能額等	0	0.0%	0	当年度収支差額	▲ 220,842		▲ 267,447			
教育活動支出計	1,795,727	100.0%	▲ 100,295	前年度繰越収支差額	532,252		46,606			
教育活動収支差額	103,954		34,015	基本金取崩額	0		0			
教育活動外収入の部	収入の部	受取利息・配当金	45	0.0%	7	翌年度繰越収支差額	311,410		▲ 220,842	
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	0						
	教育活動外収入計	45	0.0%	7						
	教育活動外支出の部	支出の部	借入金等利息	0	0.0%	0				
		その他の教育活動外支出	0	0.0%	0					
教育活動外支出計		0	0.0%	0						
教育活動外収支差額	45		7	事業活動収入計	1,899,726		▲ 66,273			
経常収支差額	103,998		34,022	事業活動支出計	1,795,727		▲ 100,295			

### 財務比率推移表（事業活動収支関係）

比率	H25	H26	H27	全国平均	比率	H25	H26	H27	全国平均
人件費率	75.9	73.8	72.9	62.2	学生生徒等納付金比率	57.6	57.7	58.8	50.9
人件費依存率	131.6	128.9	124.0	122.3	経常寄付金比率	-	-	33.8	-
教育研究経費率	21.0	20.1	18.9	25.8	経常補助金比率	-	-	0.1	-
管理経費率	2.5	2.6	2.7	5.1	減価償却額率	-	-	10.5	-
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.4	経常収支差額率	-	-	5.5	-
事業活動収支差額比率	-	-	5.5	-	教育活動収支差額比率	-	-	5.5	-
基本金組入後収支比率	-	-	114.0	-	全国平均は前年度の値				



## 平成27年度 補助金一覧表

(単位：千円)

補助金名	当年度 ①	前年度 ②	差異 ①－②
<b>短期大学補助金 合計</b>	<b>105,177</b>	<b>144,438</b>	<b>△ 39,261</b>
<b>国庫補助金 計</b>	<b>97,530</b>	<b>144,362</b>	<b>△ 46,832</b>
私立大学等経常費補助金	97,460	144,062	△ 46,602
障害者介助等助成金	70	300	△ 230
<b>地方公共団体補助金 計</b>	<b>7,647</b>	<b>76</b>	<b>7,571</b>
結核健康診断予防接種費補助金	77	76	1
高等教育機関魅力向上支援補助金	7,570	0	7,570
<b>中・高等学校補助金 合計</b>	<b>642,908</b>	<b>661,953</b>	<b>△ 19,045</b>
<b>高等学校補助金 計</b>	<b>492,689</b>	<b>513,083</b>	<b>△ 20,395</b>
<b>国庫補助金 計</b>	<b>0</b>	<b>8,996</b>	<b>△ 8,996</b>
私立大学等研究設備整備費等補助金 (IT)	0	3,932	△ 3,932
理科教育設備整備費補助金	0	1,105	△ 1,105
私立学校施設整備費補助金 (ハ`リアリ-)	0	3,959	△ 3,959
<b>地方公共団体補助金 計</b>	<b>492,689</b>	<b>504,087</b>	<b>△ 11,399</b>
私立高等学校等振興補助金	483,846	493,619	△ 9,773
授業料減免補助金	2,920	4,433	△ 1,513
入学金補助金	1,103	1,238	△ 135
人権教育推進事業費補助金 (人権教育推進事業)	438	374	64
結核健康診断予防接種費補助金	199	193	7
外国人語学指導助手補助金	300	300	0
教育改革推進事業補助金	600	600	0
私立高等学校振興補助金 (津市)	2,688	2,758	△ 70
私立高等学校振興補助金 (鈴鹿市)	375	375	0
国際交流事業補助金 (津市)	100	100	0
スポーツ奨励補助金 (津市)	120	99	21
<b>中学校補助金 計</b>	<b>150,219</b>	<b>148,869</b>	<b>1,350</b>
<b>国庫補助金 計</b>	<b>0</b>	<b>1,311</b>	<b>△ 1,311</b>
私立大学等研究設備整備費等補助金 (IT)	0	1,311	△ 1,311
理科教育設備整備費補助金	0	380	△ 380
<b>地方公共団体補助金 計</b>	<b>150,219</b>	<b>147,558</b>	<b>2,661</b>
私立高等学校等振興補助金	150,143	147,292	2,851
人権教育推進事業費補助金 (人権教育推進事業)	76	266	△ 190
<b>総 計</b>	<b>748,085</b>	<b>806,391</b>	<b>△ 58,306</b>

## 貸借対照表の概要

貸借対照表は、平成28年3月31日現在の財政状態を示しています。

### 平成27年度 貸借対照表（総括）

（単位：千円）

科 目	本年度末	前年度末	増 減
<b>固定資産</b>	<b>8,031,953</b>	<b>7,779,641</b>	<b>252,312</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>6,678,812</b>	<b>6,485,890</b>	<b>192,922</b>
土地	1,023,266	865,121	158,145
建物	4,299,888	4,495,052	△ 195,164
構築物	977,847	736,603	241,244
教育研究用機器備品	110,277	109,405	872
管理用機器備品	6,611	7,502	△ 891
図書	218,669	216,316	2,353
車 輛	12,334	16,027	△ 3,694
学 苑 林	29,919	29,919	0
建設仮勘定	0	9,943	△ 9,943
<b>特定資産</b>	<b>1,282,484</b>	<b>1,274,945</b>	<b>7,540</b>
退職給与引当特定資産	261,009	261,009	0
施設設備拡充引当特定資産	987,345	937,450	49,895
長期火災保険特定資産	34,131	76,486	△ 42,355
<b>その他の固定資産</b>	<b>70,657</b>	<b>18,806</b>	<b>51,851</b>
借 地 権	2,258	2,258	0
電 話 加 入 権	1,286	1,286	0
施 設 利 用 権	660	740	△ 81
ソフトウェア	1,652	0	1,652
有 価 証 券	49,947	2,854	47,093
差し入れ保証金	350	350	0
長期前払金	14,505	11,319	3,186
<b>流動資産</b>	<b>492,849</b>	<b>525,603</b>	<b>△ 32,754</b>
現金預金	298,368	313,865	△ 15,497
未収入金	104,512	124,524	△ 20,012
前 払 金	471	365	107
立 替 金	31,813	27,670	4,143
修学旅行費預り資産	52,489	53,559	△ 1,071
卒業諸費預り資産	5,196	5,620	△ 424
<b>資産の部合計</b>	<b>8,524,803</b>	<b>8,305,244</b>	<b>219,558</b>
<b>固定負債</b>	<b>238,629</b>	<b>235,995</b>	<b>2,634</b>
退職給与引当金	238,629	235,995	2,634
<b>流動負債</b>	<b>583,008</b>	<b>430,562</b>	<b>152,446</b>
短期借入金	130,000	0	130,000
未 払 金	71,565	54,029	17,536
前 受 金	296,999	291,634	5,365
預 り 金	26,758	25,720	1,038
修学旅行費預り金	52,489	53,559	△ 1,071
卒業諸費預り金	5,198	5,620	△ 422
<b>負債の部合計</b>	<b>821,637</b>	<b>666,557</b>	<b>155,080</b>
<b>基本金</b>	<b>11,643,004</b>	<b>11,306,970</b>	<b>336,034</b>
第1号 基本金	11,462,004	11,125,970	336,034
第4号 基本金	181,000	181,000	0
<b>繰越収支差額</b>	<b>△ 3,939,838</b>	<b>△ 3,668,283</b>	<b>△ 271,555</b>
翌年度繰越収支差額	△ 3,939,838	△ 3,668,283	△ 271,555
<b>純資産の部合計</b>	<b>7,703,166</b>	<b>7,638,687</b>	<b>64,479</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>8,524,803</b>	<b>8,305,244</b>	<b>219,558</b>

注記 1.重要な会計方針

(1)引当金の計上基準

○徴収不能引当金……未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

○退職給与引当金

(短期大学) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 113,376,225円 の100%を基にして私立大学

退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。

(中学校及び高等学校) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 916,949,920円 から三重県私学振興会より交付

金相当額を控除した金額の100%を計上している。

(2)その他重要な会計方針

○有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

2.重要な会計方針の変更等

学校法人会計基準の一部を改正する省令(平成25年4月22日文科科学省令第15号)に基づき、計算書類の様式を変更した。

なお、貸借対照表(固定資産明細表を含む。)について前年度末の金額は改正後の様式に基づき、区分及び科目を組み替えて表示している。

3.減価償却額の累計額の会計額

4,951,712,167円

4.徴収不能引当金の会計額

0円

5.担保に供されている資産の種類及び額

0円

6.翌会計年度以降の会計年度において基本金へ組入れを行うこととなる金額

144,456,715円

7.当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策

第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8.その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1)有価証券の時価情報

① 総括表

(単位 円)

	当年度(平成28年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	341,372,174	425,491,433	84,119,259
(うち満期保有目的の債券)	(48,518,500)	(100,420,300)	(51,901,800)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	107,093,000	106,391,500	△701,500
(うち満期保有目的の債券)	(70,000,000)	(69,547,000)	(△453,000)
合 計	448,465,174	531,882,933	83,417,759
(うち満期保有目的の債券)	(118,518,500)	(169,967,300)	(51,448,800)
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	448,465,174	-	-

② 明細表

(単位 円)

種 類	当年度(平成28年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債 券	338,518,500	406,163,300	67,644,800
株 式	39,946,674	56,172,633	16,225,959
投資信託	20,000,000	19,547,000	△453,000
貸付信託	-	-	-
その他	50,000,000	50,000,000	0
合 計	448,465,174	531,882,933	83,417,759
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	448,465,174	-	-

財務比率推移表（貸借対照表関係）

（単位：％）

比 率	H25	H26	H27	全国平均	評	算式（×100）	説 明
固 定 資 産 構 成 比 率	93.5	93.7	94.2	84.1	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
有 形 固 定 資 産 構 成 比 率	-	78.1	78.3	60.8	▼	$\frac{\text{有 形 固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	土地・建物等の有形固定資産の構成比が資産構成上バランスがとれているか
特 定 資 産 構 成 比 率	-	15.4	15.0	23.4	△	$\frac{\text{特 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	長期に亘って特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況はどうか
流 動 資 産 構 成 比 率	6.5	6.3	5.8	15.9	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
固 定 負 債 構 成 比 率	3.0	2.8	2.8	5.7	▼	$\frac{\text{固 定 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	長期的な負債構成のバランスと比重はどうか
流 動 負 債 構 成 比 率	5.1	5.2	6.8	5.5	▼	$\frac{\text{流 動 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	短期的な負債構成のバランスと比重はどうか
内 部 留 保 率	-	11.1	9.5	28.0	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	特定資産と有価証券と現金預金を合計した「運用資産」から総負債を引いた金額の総資産に占める割合はどうか
運 余 資 産 率	-	57.6	58.1	1.8	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{外 部 負 債}}{\text{経 常 支 出}}$	一年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているか
純 資 産 率	91.9	92.0	90.4	88.8	△	$\frac{\text{純 資 産}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	純資産の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
繰 越 収 支 差 額 率	△ 45.1	△ 44.2	△ 46.2	△ 15.2	△	$\frac{\text{繰 越 収 支 差 額}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	繰越し収支差額の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
固 定 比 率	101.7	101.8	104.3	94.7	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産}}$	土地・建物等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか
固 定 長 期 適 合 率	98.5	98.8	101.1	89.1	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産} + \text{固 定 負 債}}$	自己資金のほか長期借入金で固定資産を取得する原則にどの程度適合しているか
流 動 比 率	127.6	122.1	84.5	286.9	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	1年以内に償還する流動負債に対して1年以内に現金化が可能な流動資産はどの程度用意されているか
総 負 債 比 率	8.1	8.0	9.6	11.2	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	純資産に対する他人資金の比重はどうか
負 債 比 率	8.8	8.7	10.7	12.6	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないか
前 受 金 率	84.6	107.6	100.5	444.1	△	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	翌年度分の入学金等が現金預金の形で適切に保有されているか
退 職 給 与 引 当 特 定 資 産 保 有 率	106.7	110.6	109.4	61.7	△	$\frac{\text{退 職 給 与 引 当 特 定 資 産}}{\text{退 職 給 与 引 当 金}}$	退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているか
基 本 金 比 率	99.9	101.5	98.8	97.7	△	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基 本 金 要 組 入 額}}$	基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合はどうか
減 価 償 却 比 率	40.5	42.8	45.2	51.8	～	$\frac{\text{減 価 償 却 累 計 額}(\text{図 書 除 却})}{\text{減 価 償 却 資 産 取 得 価 額}(\%)}$	減価償却累計額が取得価格に対してどの程度占めているか
積 立 率	-	32.4	31.4	-	△	$\frac{\text{運 用 資 産}}{\text{要 積 立 額}}$	持続的かつ安定的な経営を継続するために必要な運用資産の保有状況はどうか

評価指標 △：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない  
 全国平均は前年度の値

## 財産目録

(単位：千円)

一、	資	産	総	額	8,524,803
内	1.	基	本	財	6,650,545
	2.	運	用	財	1,874,258
二、	負	債	総	額	821,637
三、	正	味	財	産	7,703,166

項	目	数	量	金	額
<b>(一) 資産</b>					<b>8,524,803</b>
<b>1. 基本財産</b>					<b>6,650,545</b>
(ア)	土 地	102,641.86	m <sup>2</sup>		1,023,266
(イ)	建 物	39,650.03	m <sup>2</sup>		4,299,888
(ウ)	構 築 物	214	点		977,847
(エ)	図 書	97,508	冊		218,669
(オ)	教育研究用機器備品	16,700	点		110,277
(カ)	管理用機器備品	156	点		6,611
(キ)	車 輛	8	台		12,334
(ク)	ソフトウェア	1	本		1,652
(ケ)	建設仮勘定				0
<b>2. 運用財産</b>					<b>1,874,258</b>
(ア)	現金及び預金				298,368
(イ)	修学旅行費預り資産				52,489
(ウ)	卒業諸費預り資産				5,196
(エ)	未 収 入 金				104,512
(オ)	借 地 権	1	点		2,258
(カ)	電 話 加 入 権	15	基		1,286
(キ)	施 設 利 用 権	3	点		660
(ク)	差し入れ保証金				350
(ケ)	有 価 証 券	151,717.00	株		49,947
(コ)	土 地	61,913.00	m <sup>2</sup>		29,919
(サ)	退職給与引当特定資産				261,009
(シ)	長期火災保険特定資産				34,131
(ス)	施設設備拡充引当特定資産				987,345
(セ)	長 期 前 払 金				14,505
(ソ)	前 払 金				471
(タ)	立 替 金				31,813
<b>(二) 負債</b>					<b>821,637</b>
<b>1. 固定負債</b>					<b>238,629</b>
(ア)	退職給与引当金				238,629
<b>2. 流動負債</b>					<b>583,008</b>
(ア)	短期借入金				130,000
(イ)	未 払 金				71,565
(ウ)	前 受 金				296,999
(エ)	預 り 金				84,444
(1)	職員源泉等預り金				26,758
(2)	修学旅行費預り金				52,489
(3)	卒業諸費預り金				5,198

## 正味財産の推移

